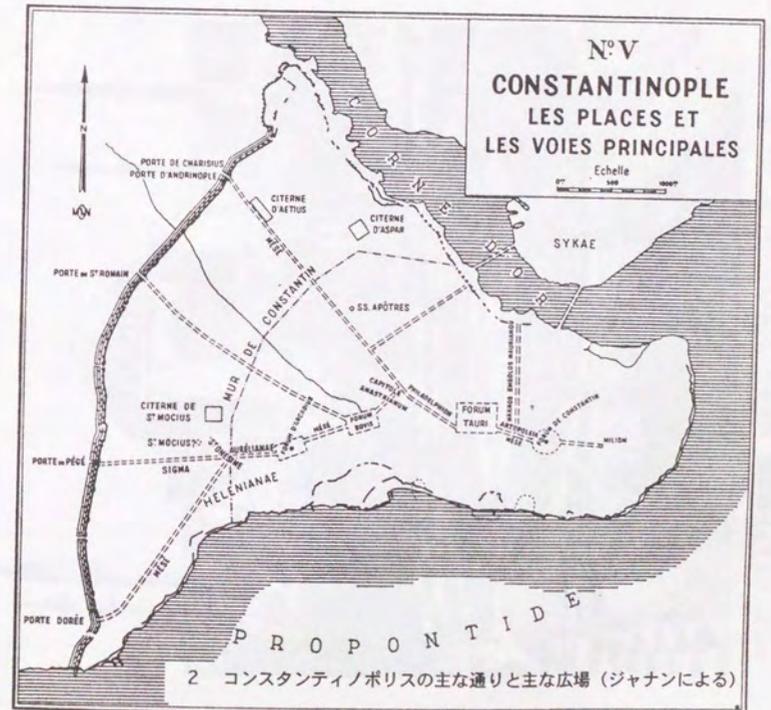
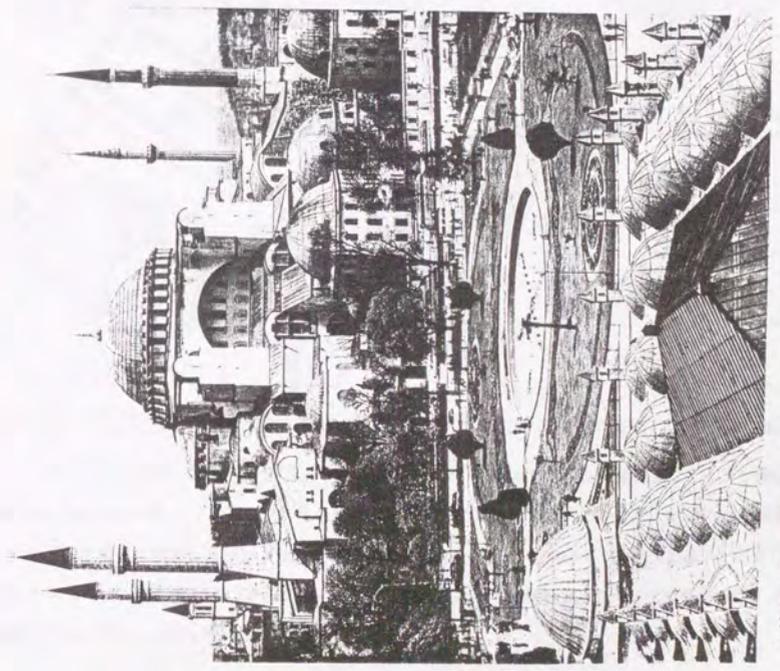


图号	图名	比例	日期	作者	校核
1-1	第一号图	1:1	1950.10	张三	李四
1-2	第二号图	1:1	1950.11	张三	李四
1-3	第三号图	1:1	1950.12	张三	李四
1-4	第四号图	1:1	1951.01	张三	李四
1-5	第五号图	1:1	1951.02	张三	李四
1-6	第六号图	1:1	1951.03	张三	李四
1-7	第七号图	1:1	1951.04	张三	李四
1-8	第八号图	1:1	1951.05	张三	李四
1-9	第九号图	1:1	1951.06	张三	李四
1-10	第十号图	1:1	1951.07	张三	李四

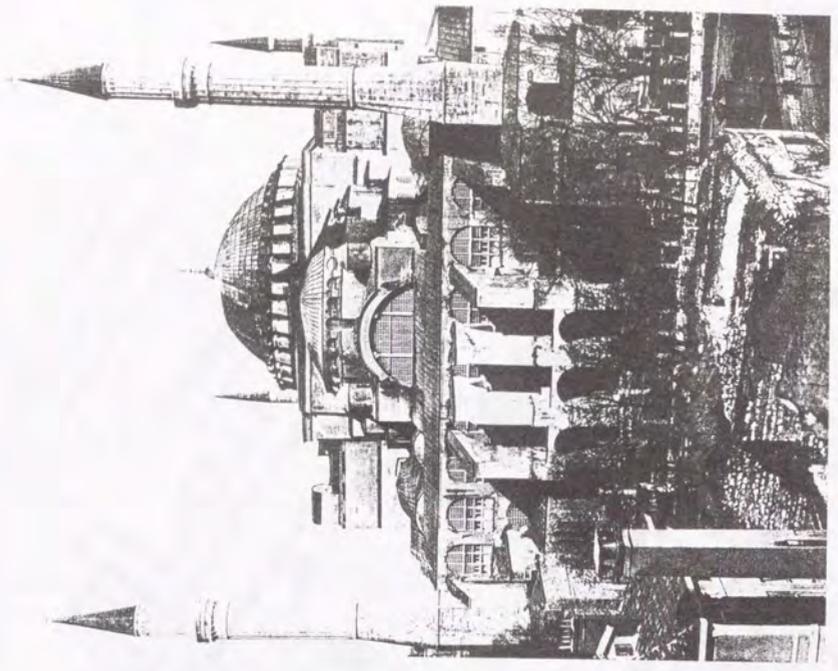
此图是根据... 数据... 编制... 仅供参考... 不作为... 依据... 编制... 日期... 1951.08.01

图版

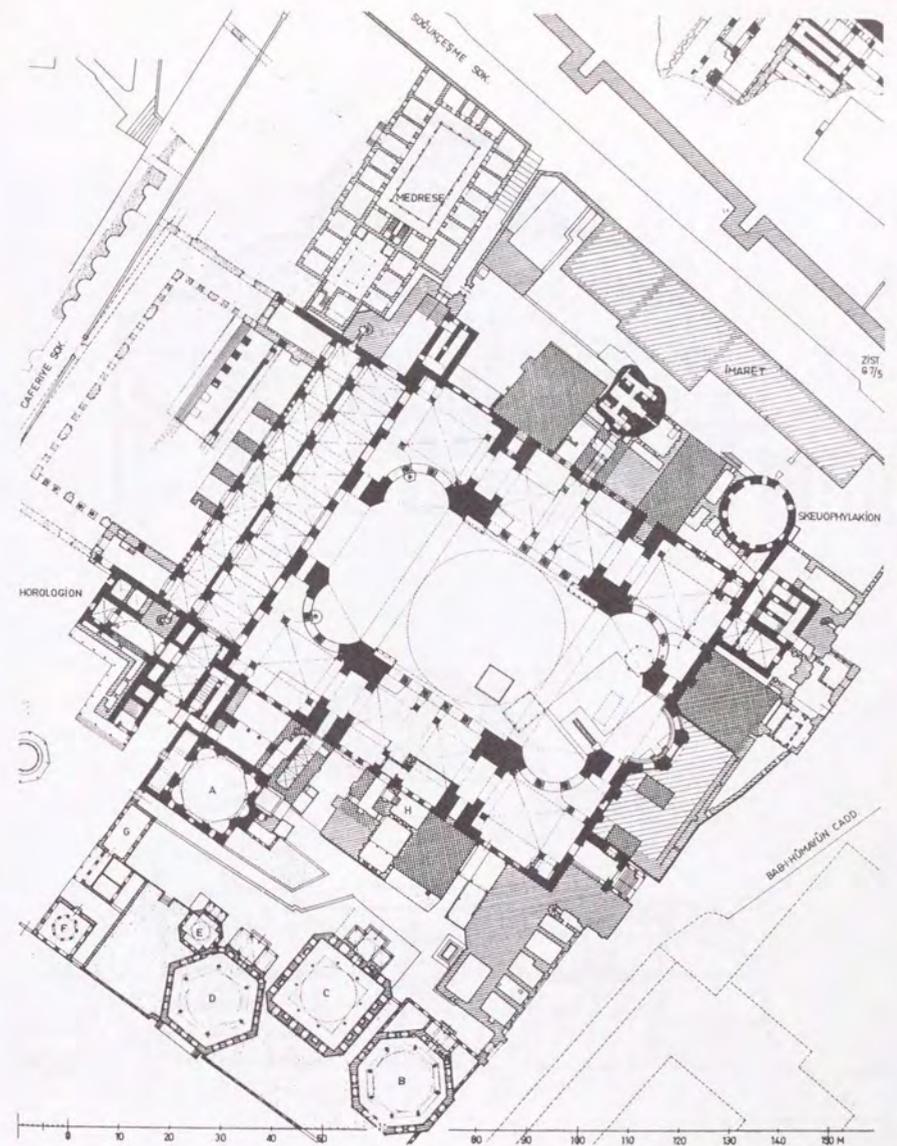




3 ハギア・ソフィア外観南側、スルタン・アフメト・ジャマ・メセ・ジャマ・メセのナリナリから写す。



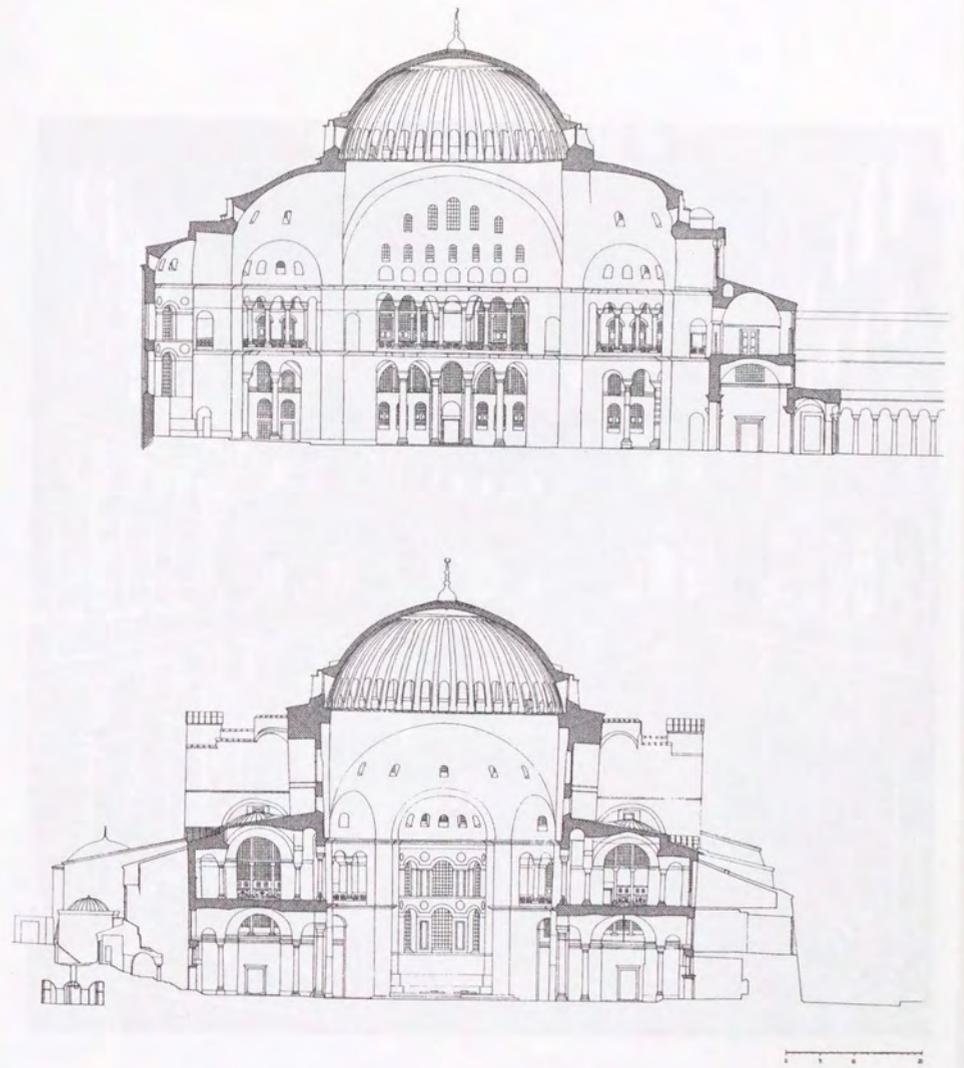
4 ハギア・ソフィア外観西側。



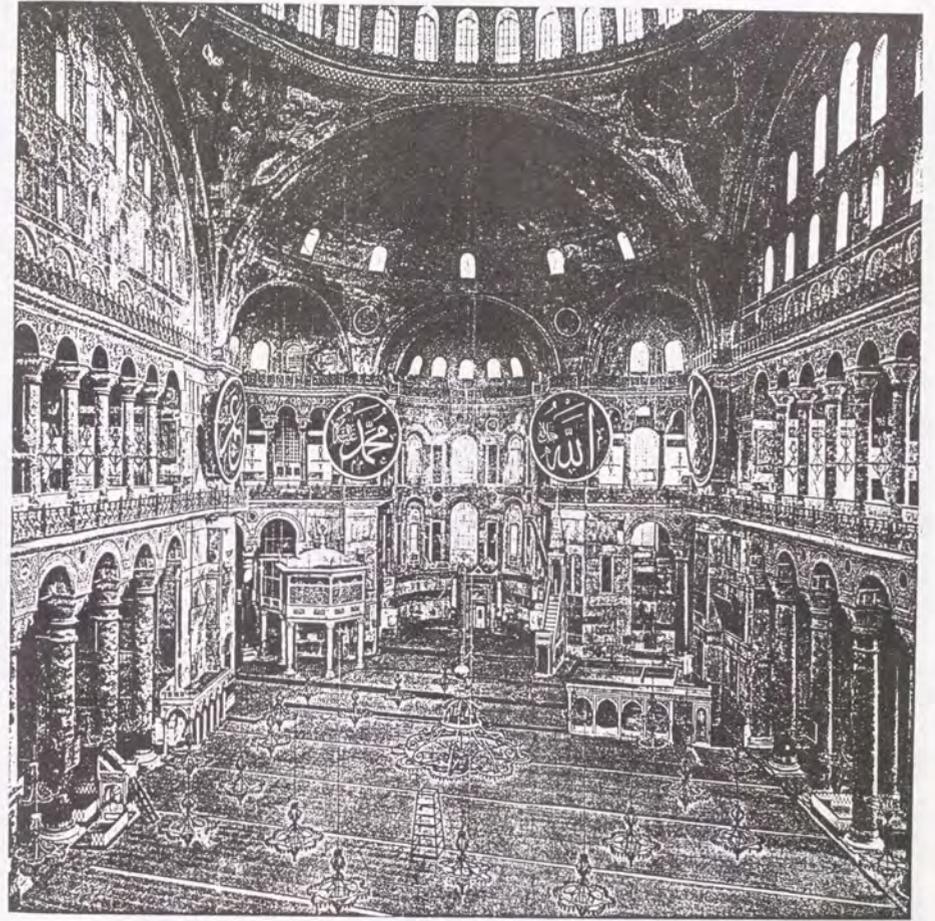
5 ハギア・ソフィア、現状の平面図、6世紀の建築（黒）、現存しないが発掘調査などにより存在が確認されたもの（点描）、ビザンツ時代の補強工事（網）、オスマン時代の増改築（斜線）。A=洗礼堂、1618年に霊廟に改装。B=メフメト3世の霊廟（1608年）。C=セリム2世の霊廟（1576/77年）。D=ムラト3世の霊廟（1594年）。E=王子達の霊廟。F=時計堂。G=近代の事務所棟。H=図書室（1738年）。（ミュラー=ヴィーナーによる）



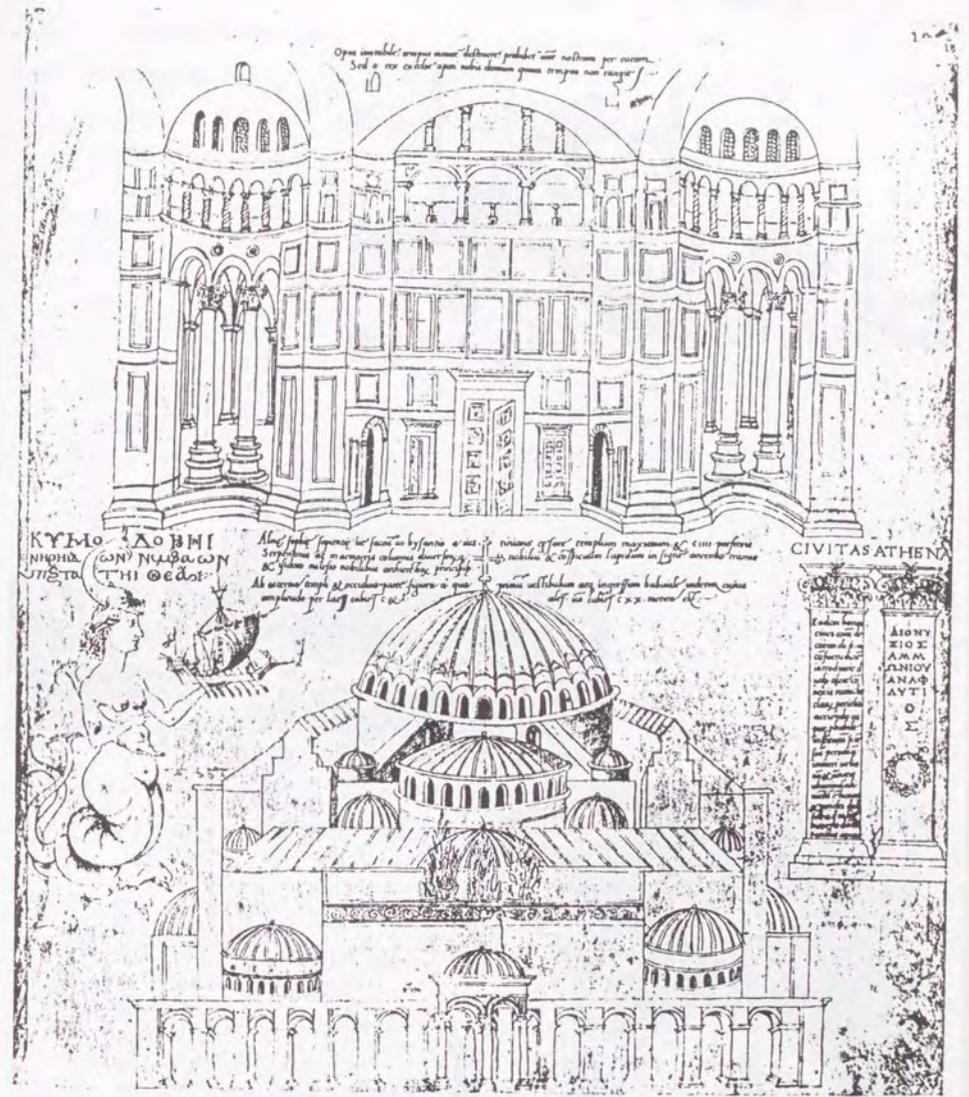
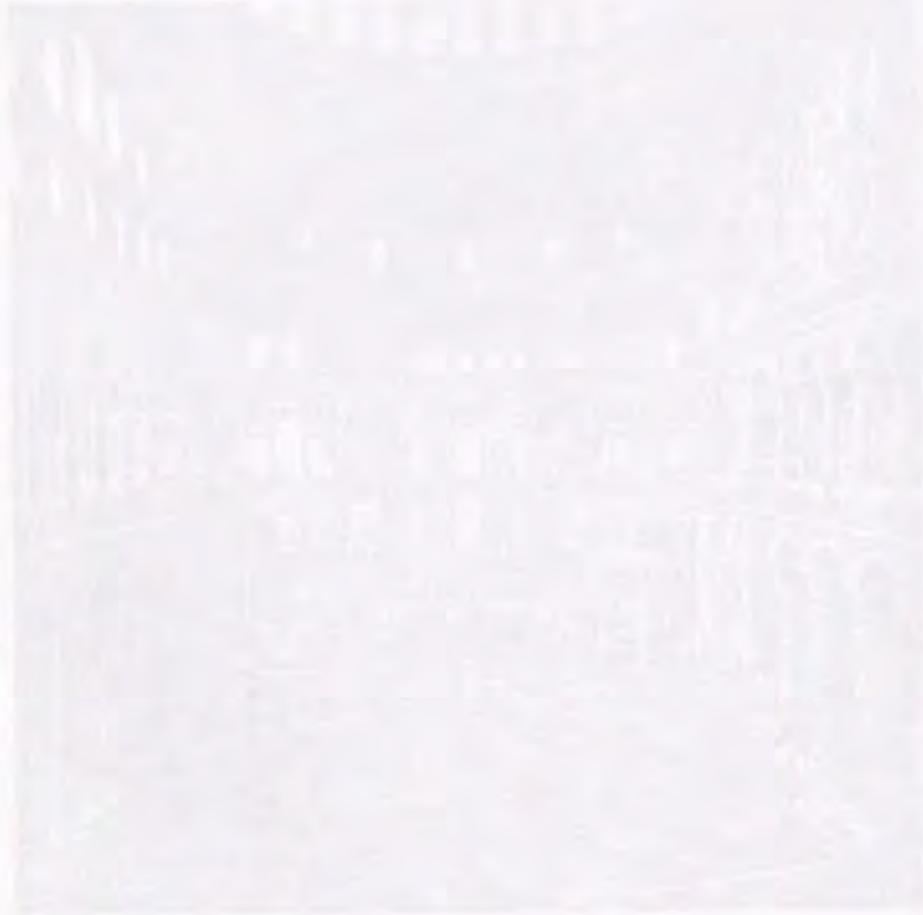
ハギア・ソフィア、現状の東西断面図（上）と南北断面図（下）。（ケーラーによる）



6 ハギア・ソフィア、現状の東西断面図（上）と南北断面図（下）。（ケーラーによる）



7 1930年代のハギア・ソフィアの身廊、アプス方向を西ギャラリーより望む。



8 アンコーナのキュリアクスによる15世紀前半のスケッチ、ハギア・ソフィア身廊西側入口部分内部立面(上)と外観西正面(下)のジュリアーノ・ダ・サンガルロによる写し。(Vat. Barb. lat.4424, fol.28r.)

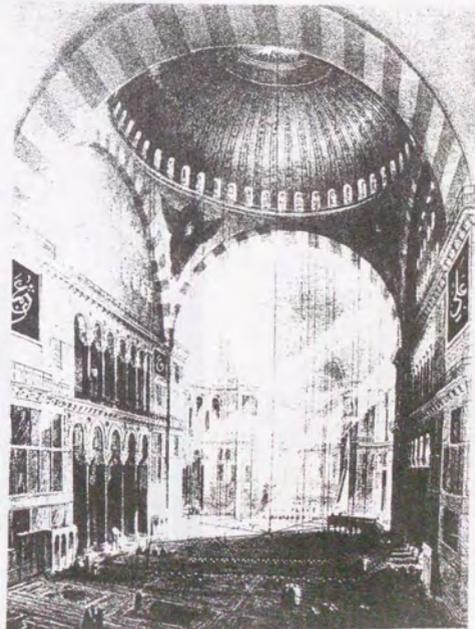
1680年、グルロによる西南方向から見た

ハギア・ソフィアの外観スケッチ。



10 フォッサーティによる1847年、工事前の

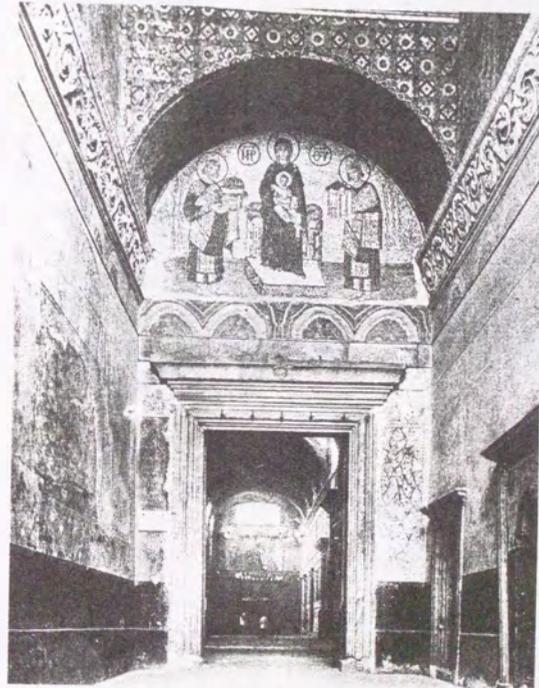
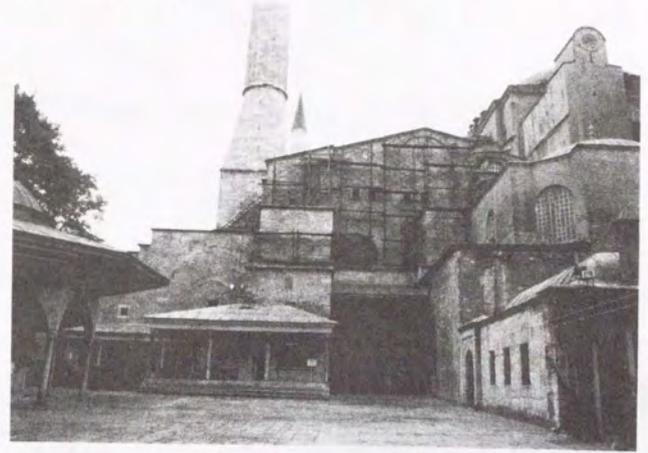
ハギア・ソフィアの外観、西南から望む。



11 フォッサーティによる1847年、工事前の

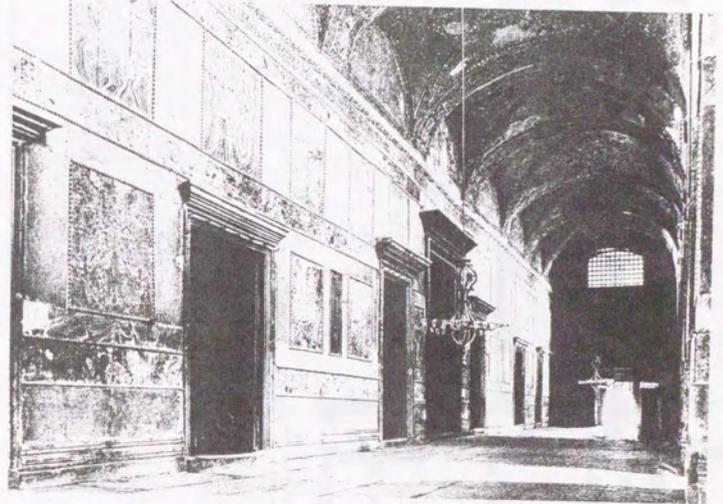
ハギア・ソフィアの内観、西から望む。

12 南側から見たハギア・ソフィア南西の付属建築群。画面一番左端の独立した建物はオスマン時代の泉水、画面左手のミナレットのふもとの建物がホーロギオン、その右側がナルテックスへと続く前室への入口、その上の煉瓦造の建物はかつての総主教宮の一部、画面右手前の八角堂が洗礼堂、さらに手前の白い建物が近代の事務所棟である。

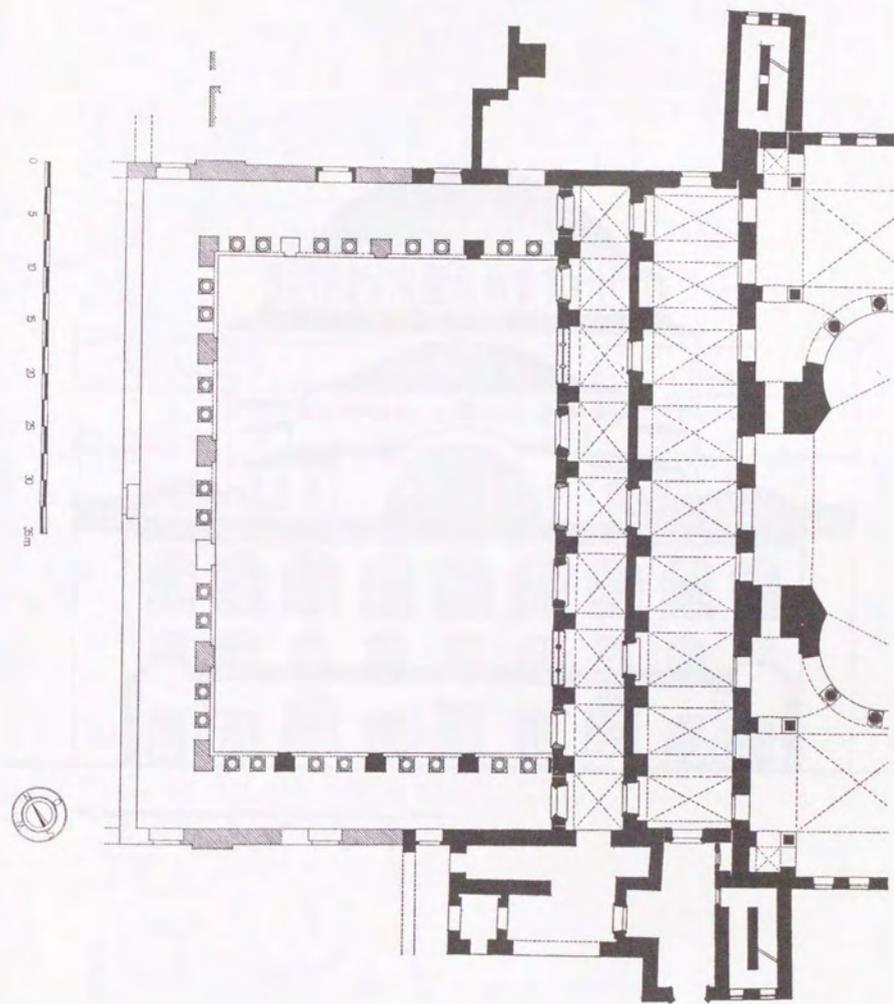


13 ハギア・ソフィア、ナルテックス南側前室のナルテックス側の入口を南から見る。右側の壁面、奥の戸口がアントニアデスの指摘するメータトーリオンの位置である。

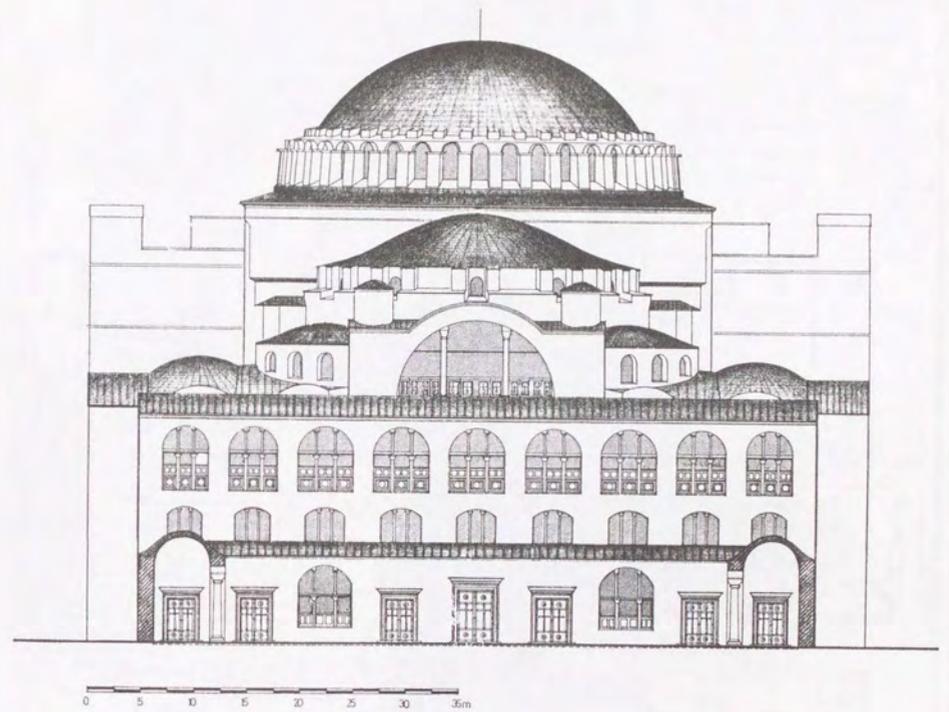
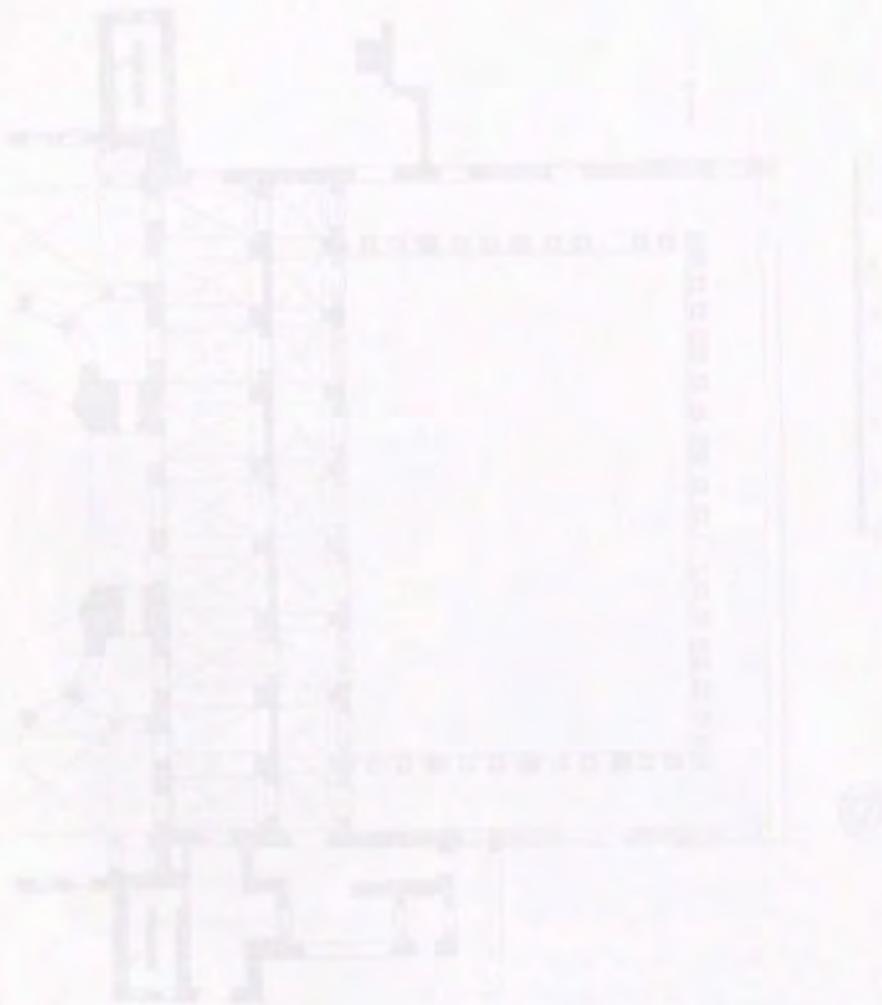
ハギア・ソフィア、内側のナルテックスを北から南へ見る。左側の壁面、ほぼ画面中央の大きな戸口が皇帝の門である。



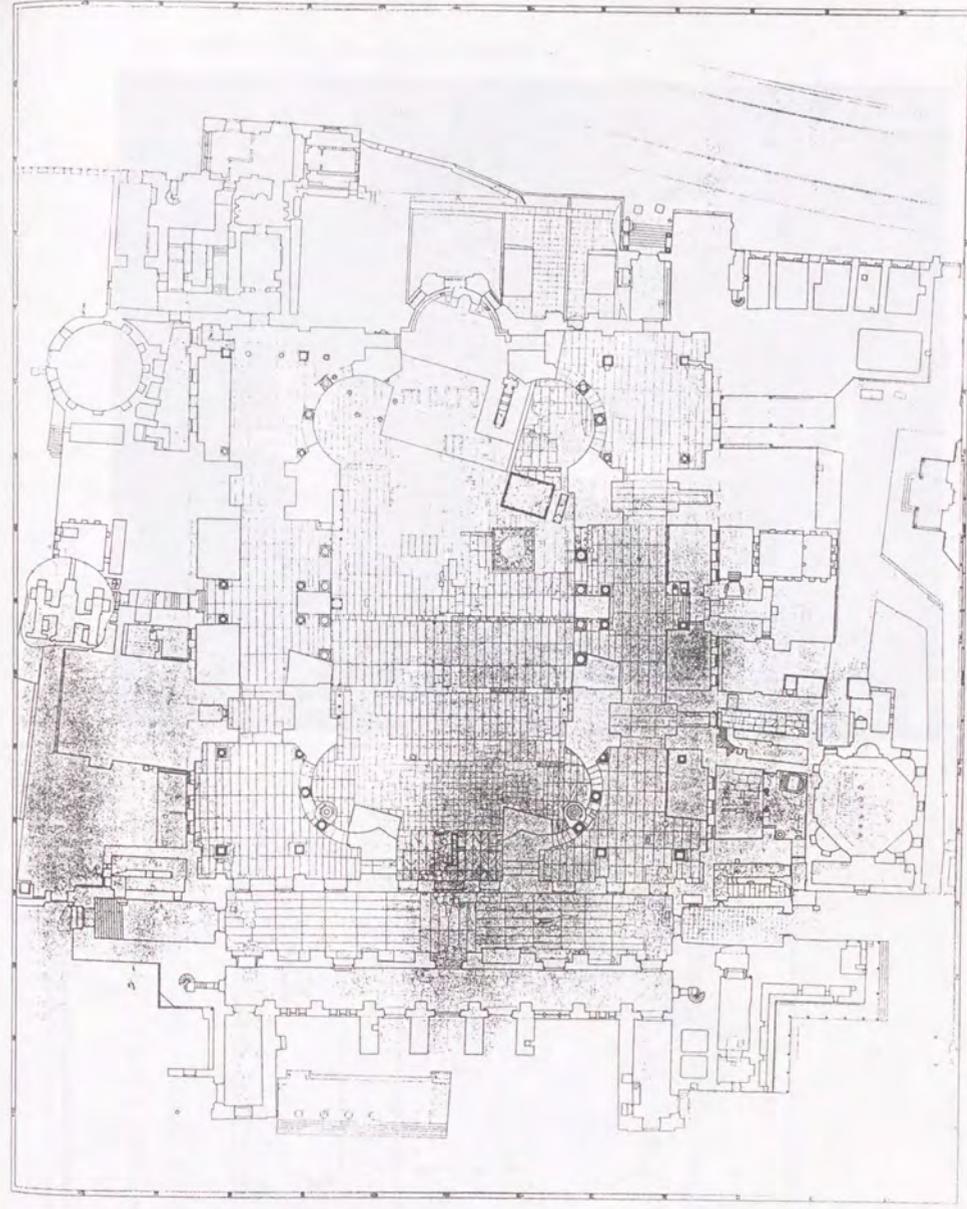
14 ハギア・ソフィア、内側のナルテックスを北から南へ見る。左側の壁面、ほぼ画面中央の大きな戸口が皇帝の門である。



15 シュトルーベに基づく、ハギア・ソフィア563年時点のアトリウムの復元平面図。

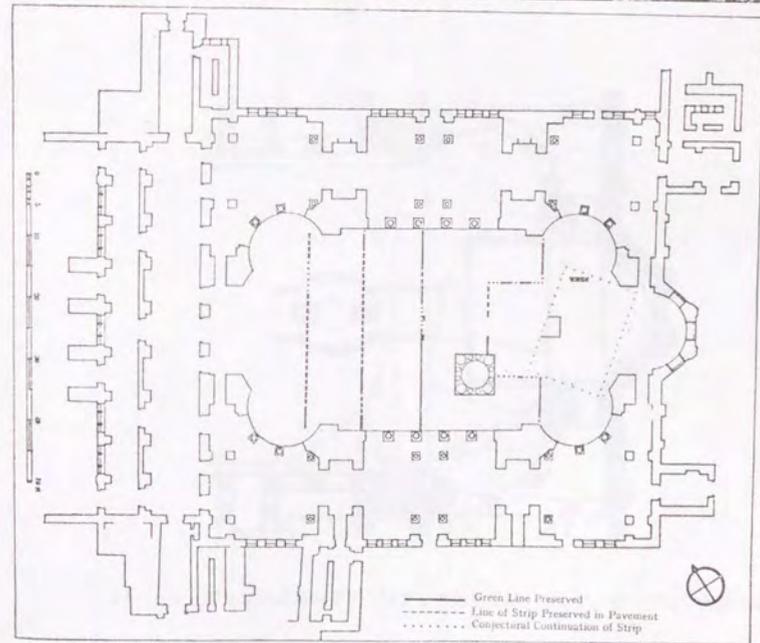
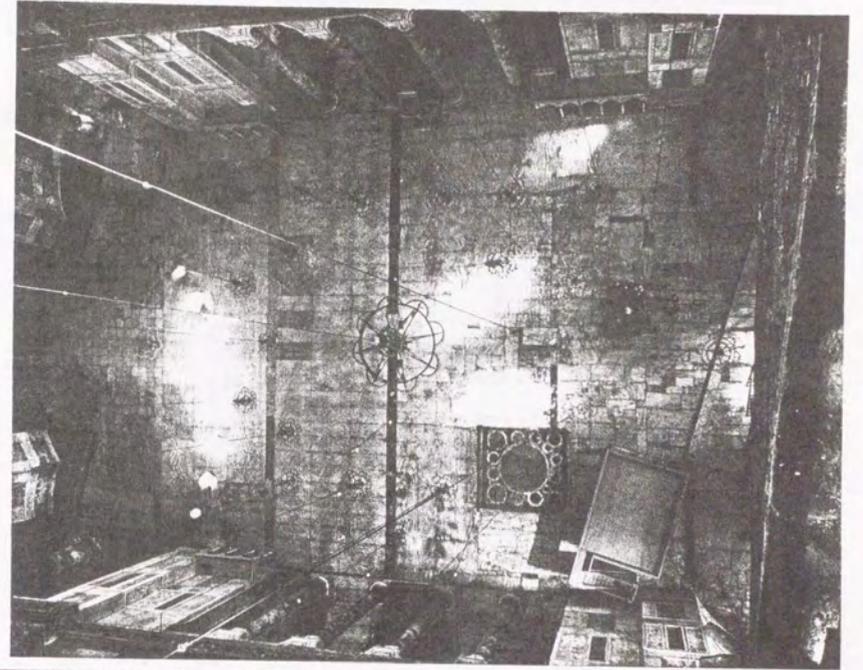


16 シュトゥルレーベに基づく、ハギア・ソフィア563年時点での西正面の復元立面図。

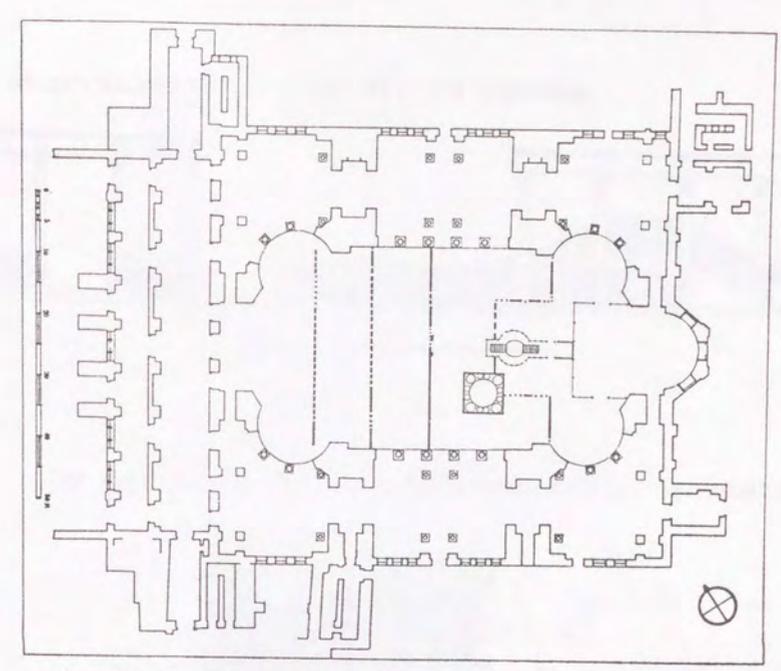


17 ハギア・ソフィア、
身廊の現状平面図。
(ヴァン・ナイスによる)

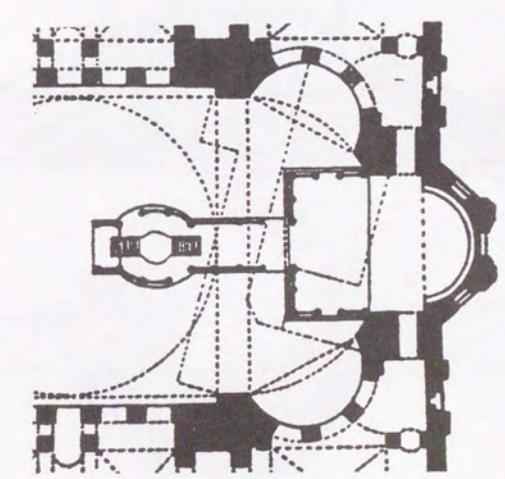
18 ハギア・ソフィア、ドームからみた身廊の様子。



19 マジェスカによるハギア・ソフィア身廊床面、緑色の石材の現状。

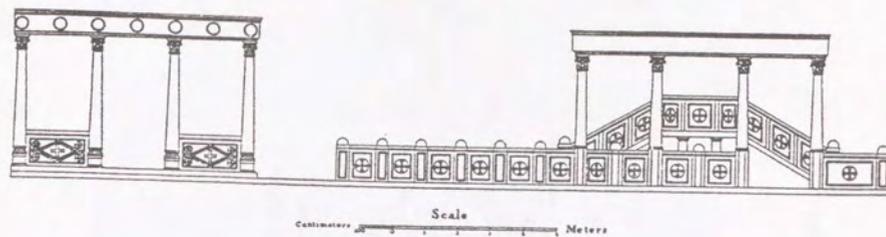


20 ハギア・ソフィア、マジェスカの想定による堂内装置の位置。

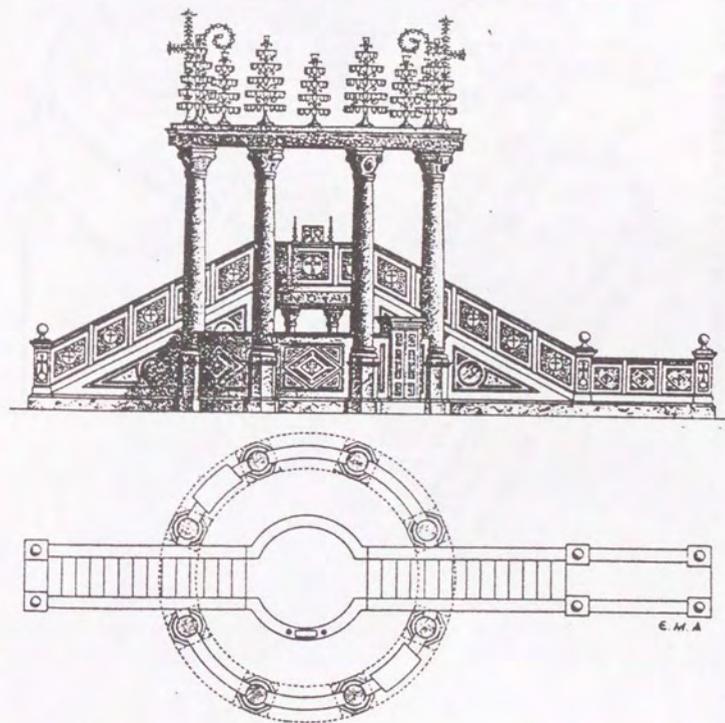


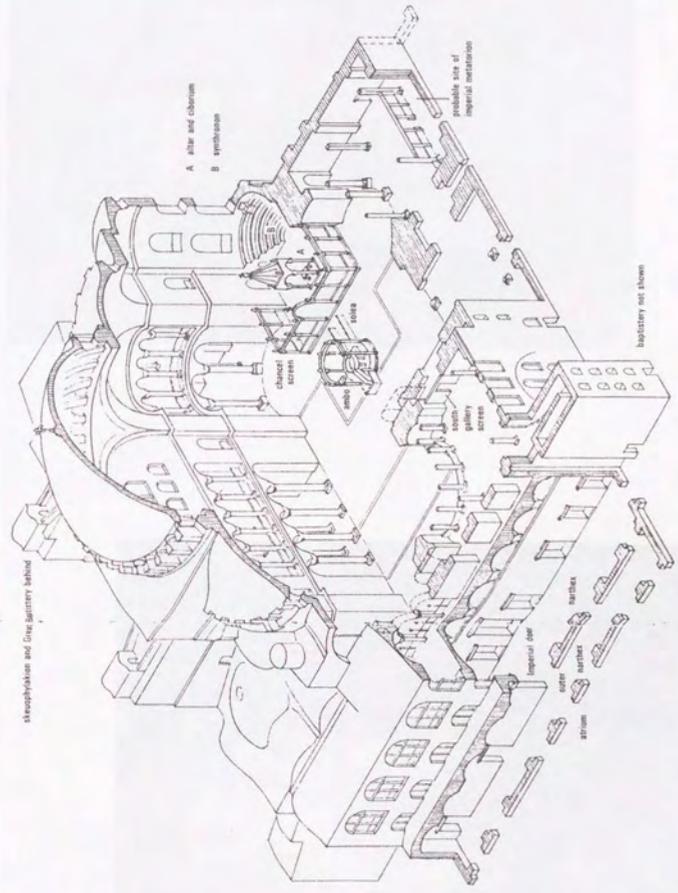
21 クシュディスによるハギア・ソフィアのアンボ、ソレア、テンブロンの復元平面図。

22 クシュティスによるハギア・ソフィアのアンボとテンプロンの復元側面図。



23 ハギア・ソフィア、アントニアデスによるアンボの復元側面図(上)と復元平面図(下)。

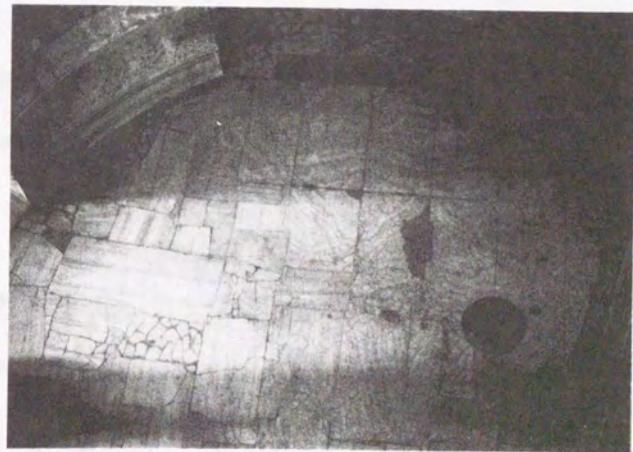




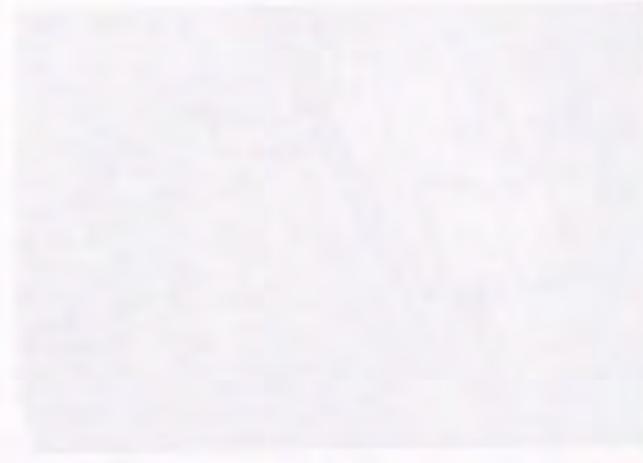
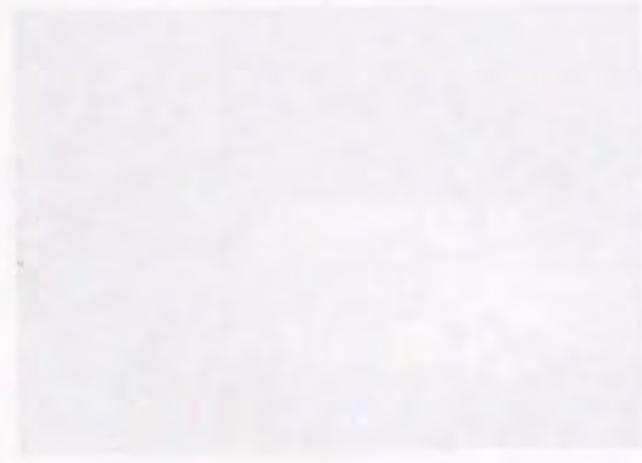
24 6世紀当時のハギア・ソフィアの堂内装置、メインストンによる想像復元図。



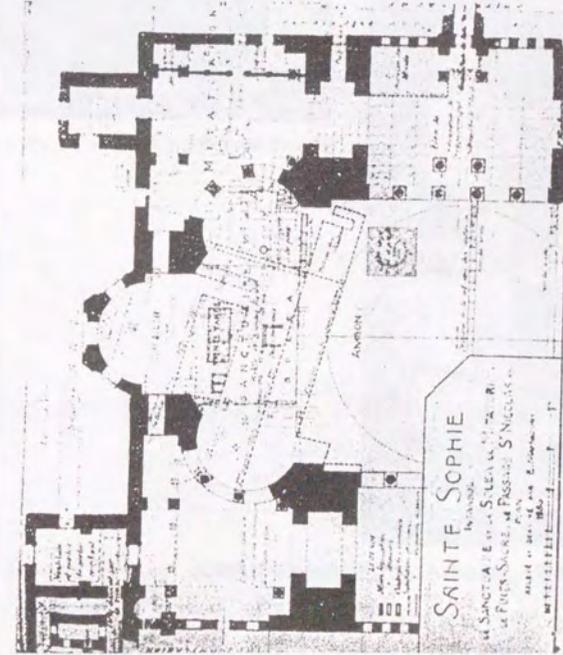
25 ハギア・ソフィア、身廊アプス前の床面をギャラリー東南エクセドラより見下ろす。画面左側柵外の色のついた口字型の石材がテンブロン戸口のあとと思われる。



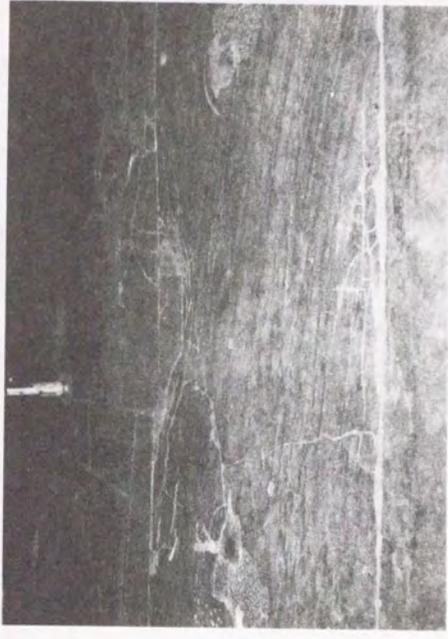
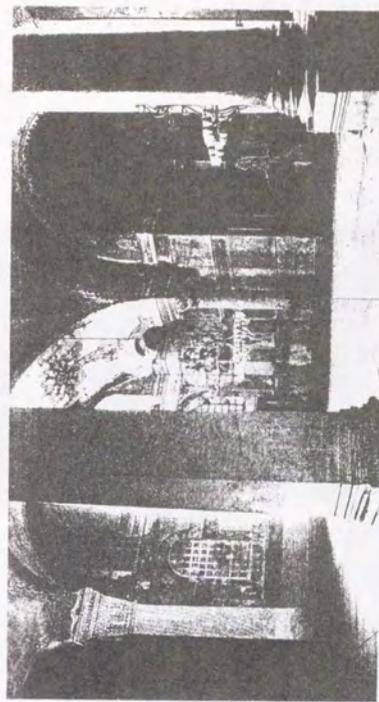
26 ハギア・ソフィア、東南エクセドラ床面をギャラリーより見下ろす。画面右上の色のついた円形の石材が、マンブーリの指摘するそれである。



28 ハギア・ソフィア、南側廊と右端のベイを東北より望む。画面中央右の壁際の円柱と、左端の角柱の間に障壁があった可能性がある。

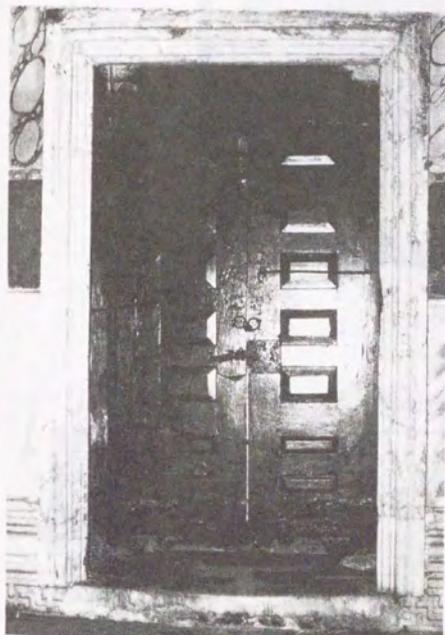
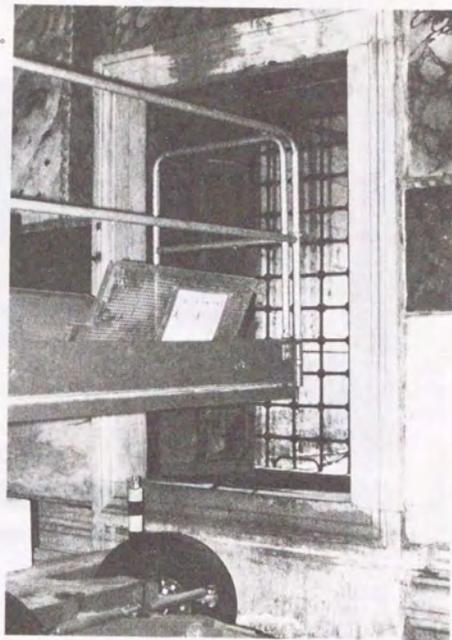


27 ハギア・ソフィア、身廊東部分の現状とマンブーリによる堂内装置の復元平面図。

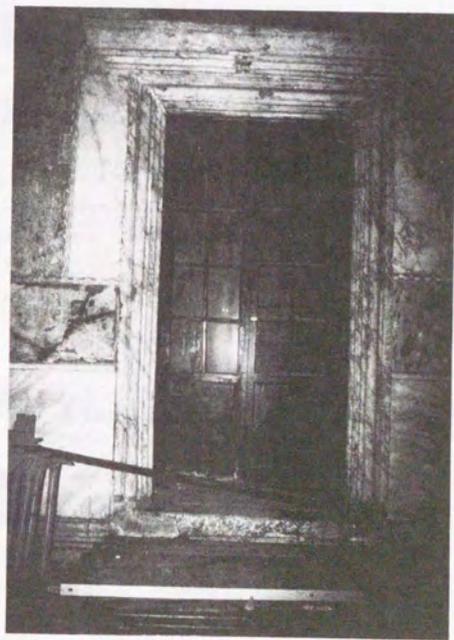


29 ハギア・ソフィア、南側廊東端部南壁体前の床面。画面中央に二つ、穴のあとがあり、その左右に円弧状に摩耗したあとをともなった大きな穴のあとがある。

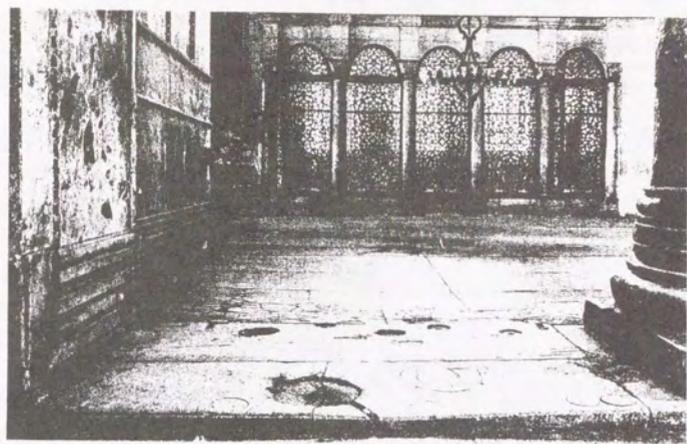
30 ハギア・ソフィア、南側廊東端部南壁体中央の窓。



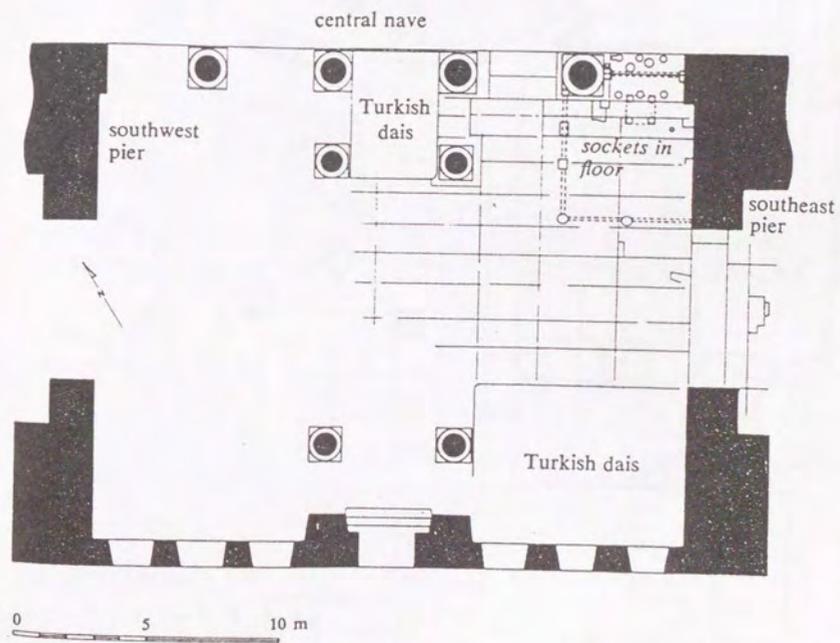
31 ハギア・ソフィア、南側廊東端部南壁体西側の戸口。



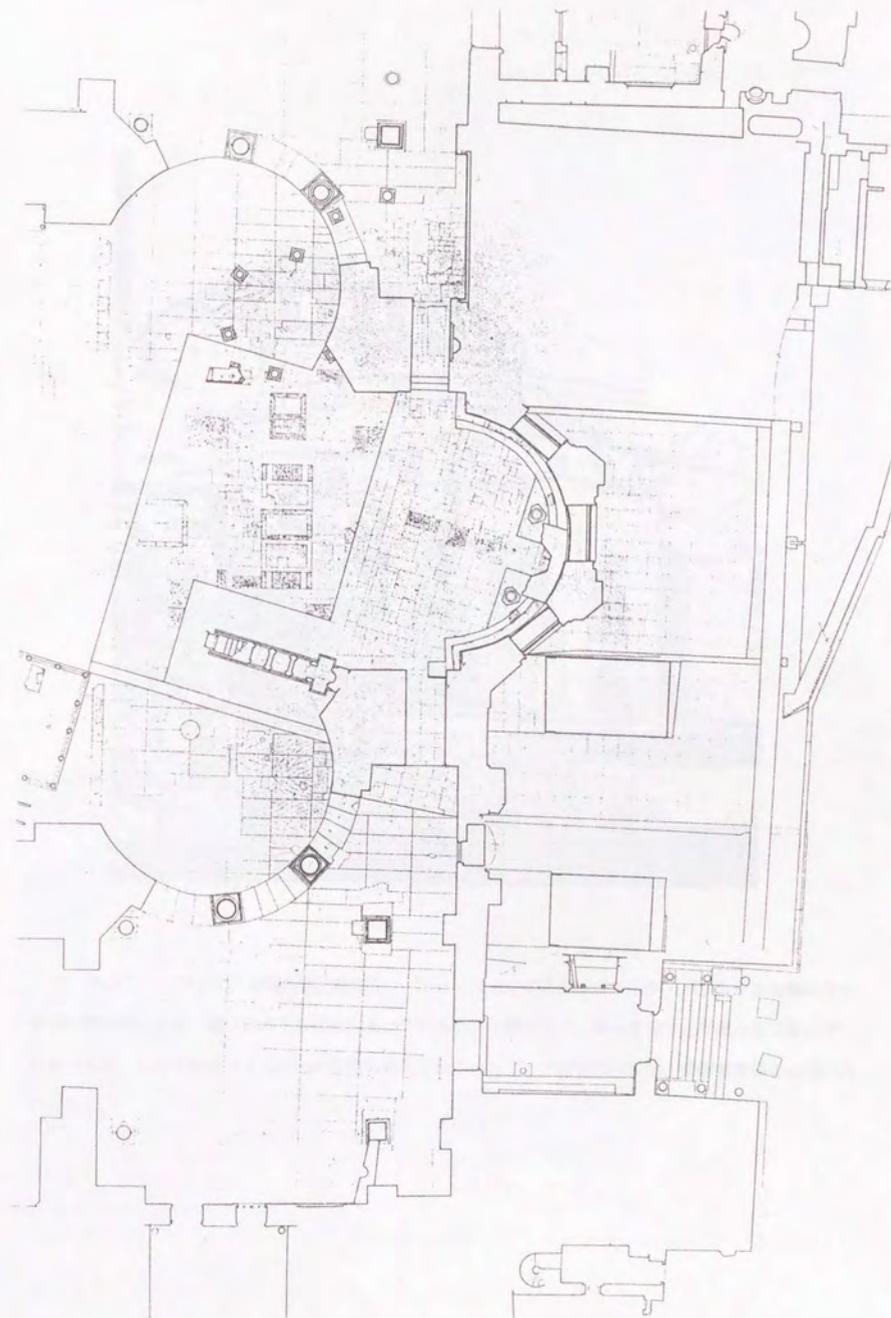
32 ハギア・ソフィア、北側廊東端部北側の戸口。この開口部は当初と思われる。戸口の上のモールディングが台形に大きく張り出していることに注意。



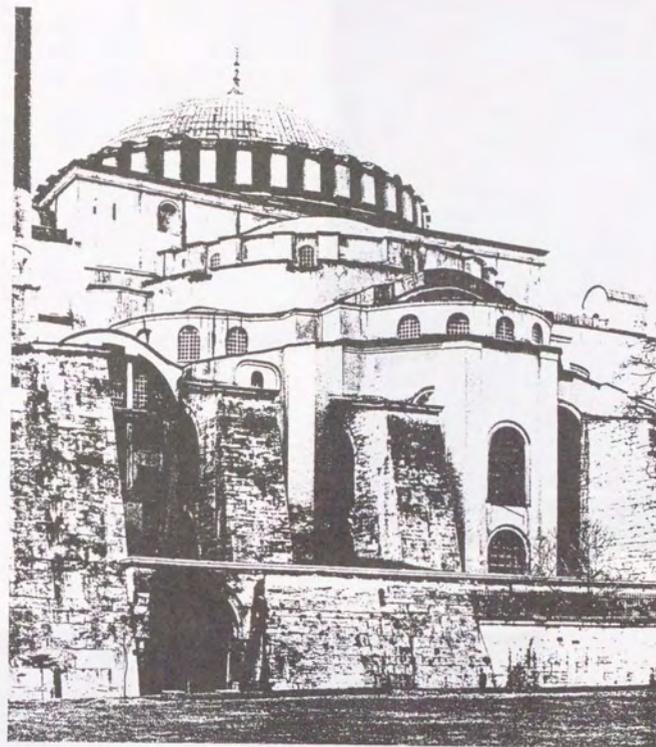
33 ハギア・ソフィア、南側廊東南ピア脇の床面の痕跡。



34 ハギア・ソフィア、マシューズによる南側廊東南ピア脇の床面の痕跡と玉座周囲の障壁の復元。



35 ハギア・ソフィア、一階東南部分の現状平面図（部分）。（ヴァン・ナイスによる）



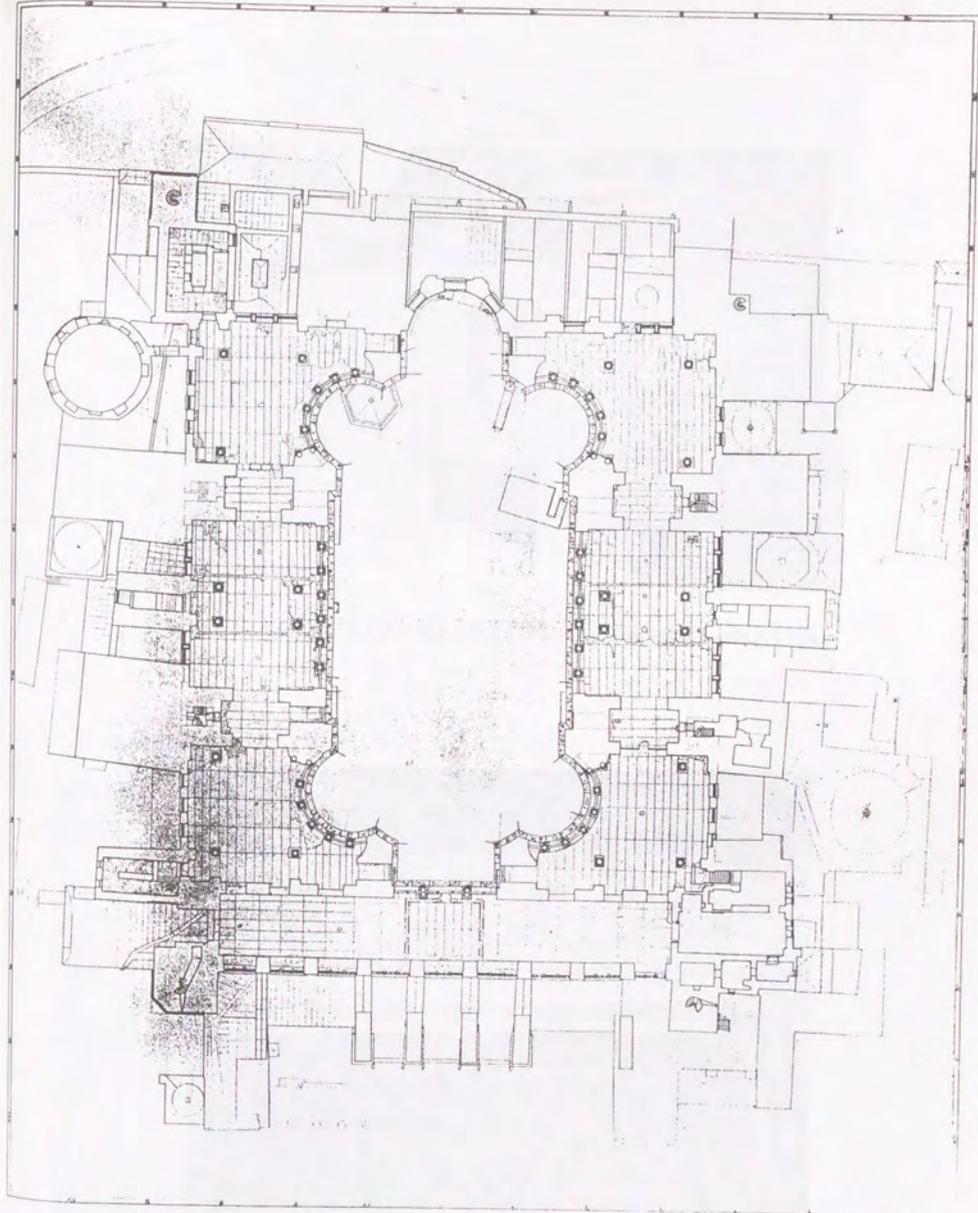
36 ハギア・ソフィア、東側外観。画面左のバットレスとその右のフライング・バットレスの間のアーチ状の開口部に注意。開口部右下の壁体にあいている小さな開口部が、ギャラリーと外部とをつないでいた扉である。ちなみにその下の三本の円柱に支えられているアーチの中の戸口は、南側廊東側の前室の入口である。



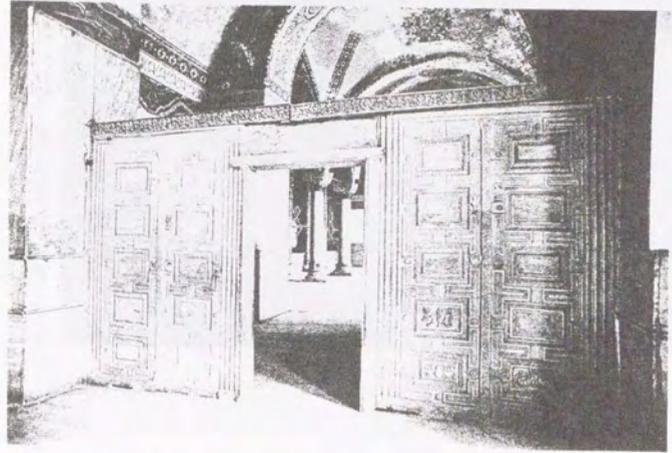
37 ハギア・ソフィア、南ギャラリー東端の扉。



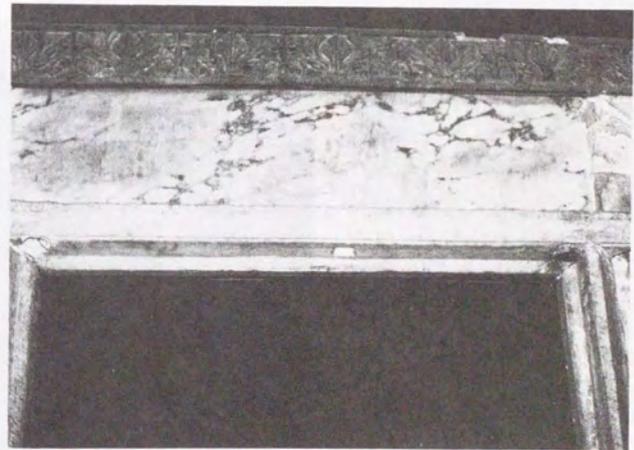
38 ハギア・ソフィア、南ギャラリー東端の壁体。左端が扉である。その左側の壁体はモザイク画が残っている。



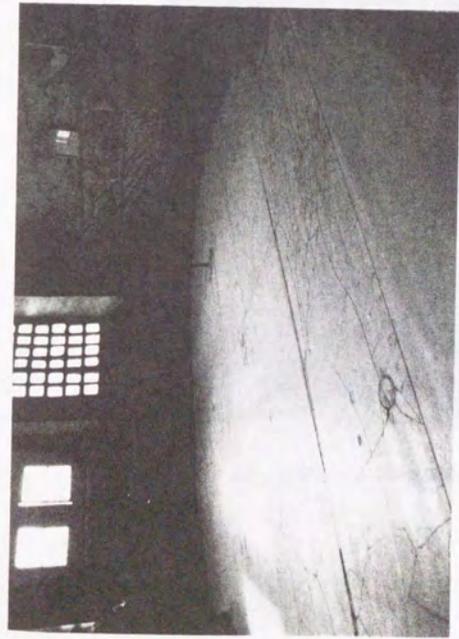
39 ハギア・ソフィア、
ギャラリーレベル、
現状の平面図。
(ヴァン・ナイスによる)



40 ハギア・ソフィア、南ギャラリー西側のピアの間の障壁。西側から見る。

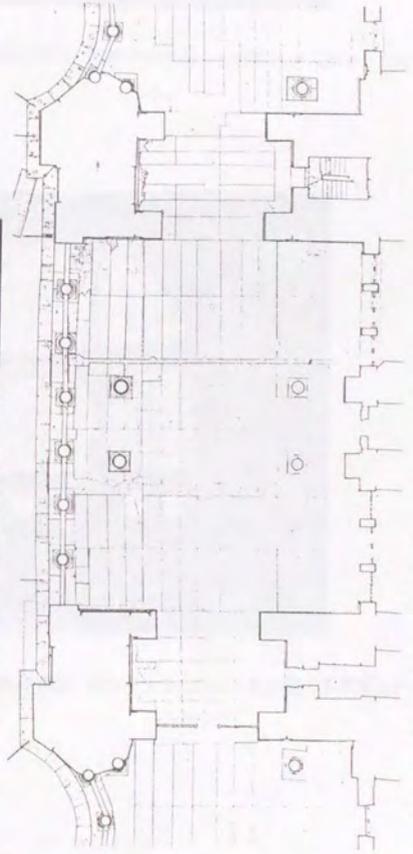
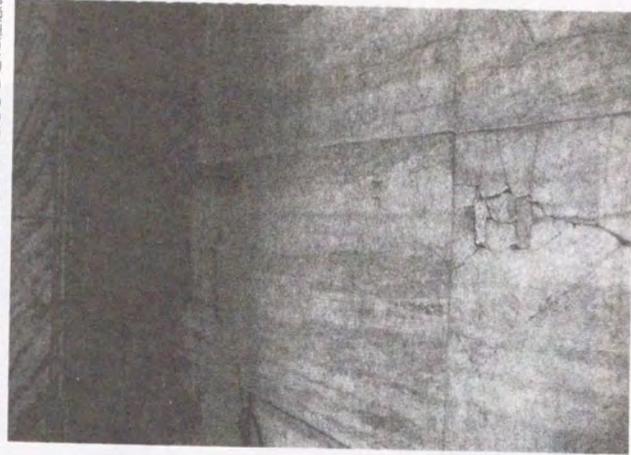


41 ハギア・ソフィア、南ギャラリーの障壁の開口上部の見上げ。左右の穴に注意。

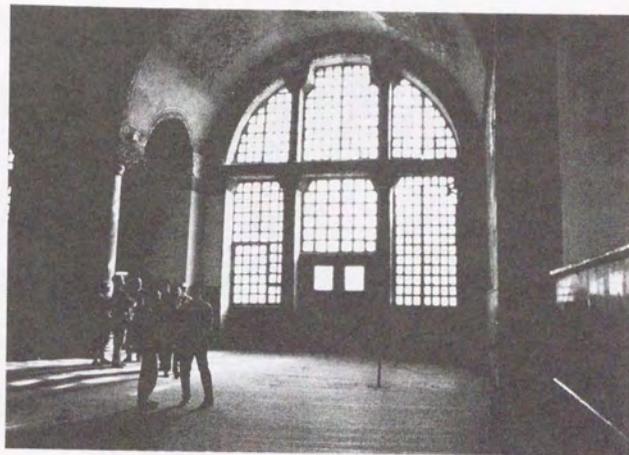


43 ハギア・ソフィア、南ギャラリー-西南バットレス・ピア西、デエシス手前の床面。

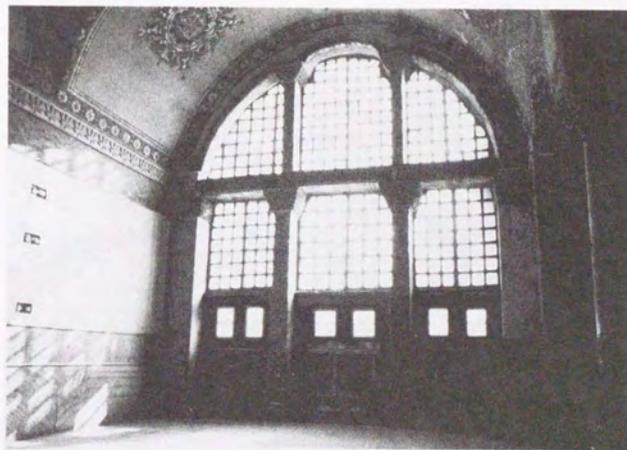
44 ハギア・ソフィア、デエシス手前の床面。痕跡の延長線が壁体に当たること注意到。



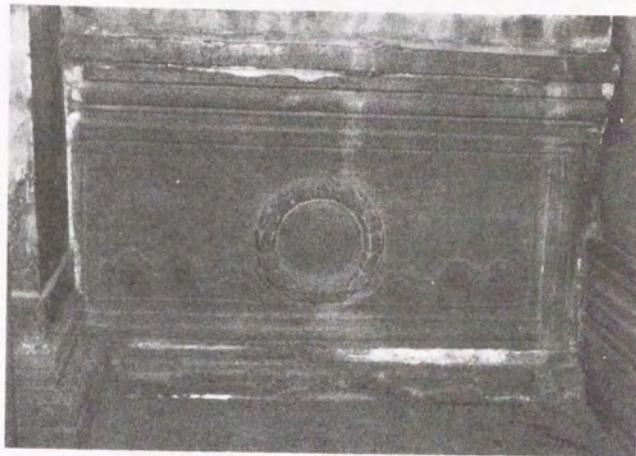
42 ハギア・ソフィア、南ギャラリー-中央部、現状の平面図。(ヴァン・ナイスによる)



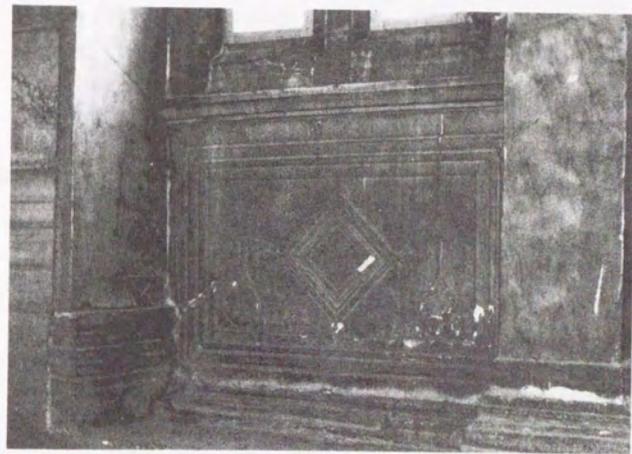
45 ハギア・ソフィア、南ギャラリー中央部西側の開口。窓枠やバラベットの形状が三箇所とも違うことに注目。



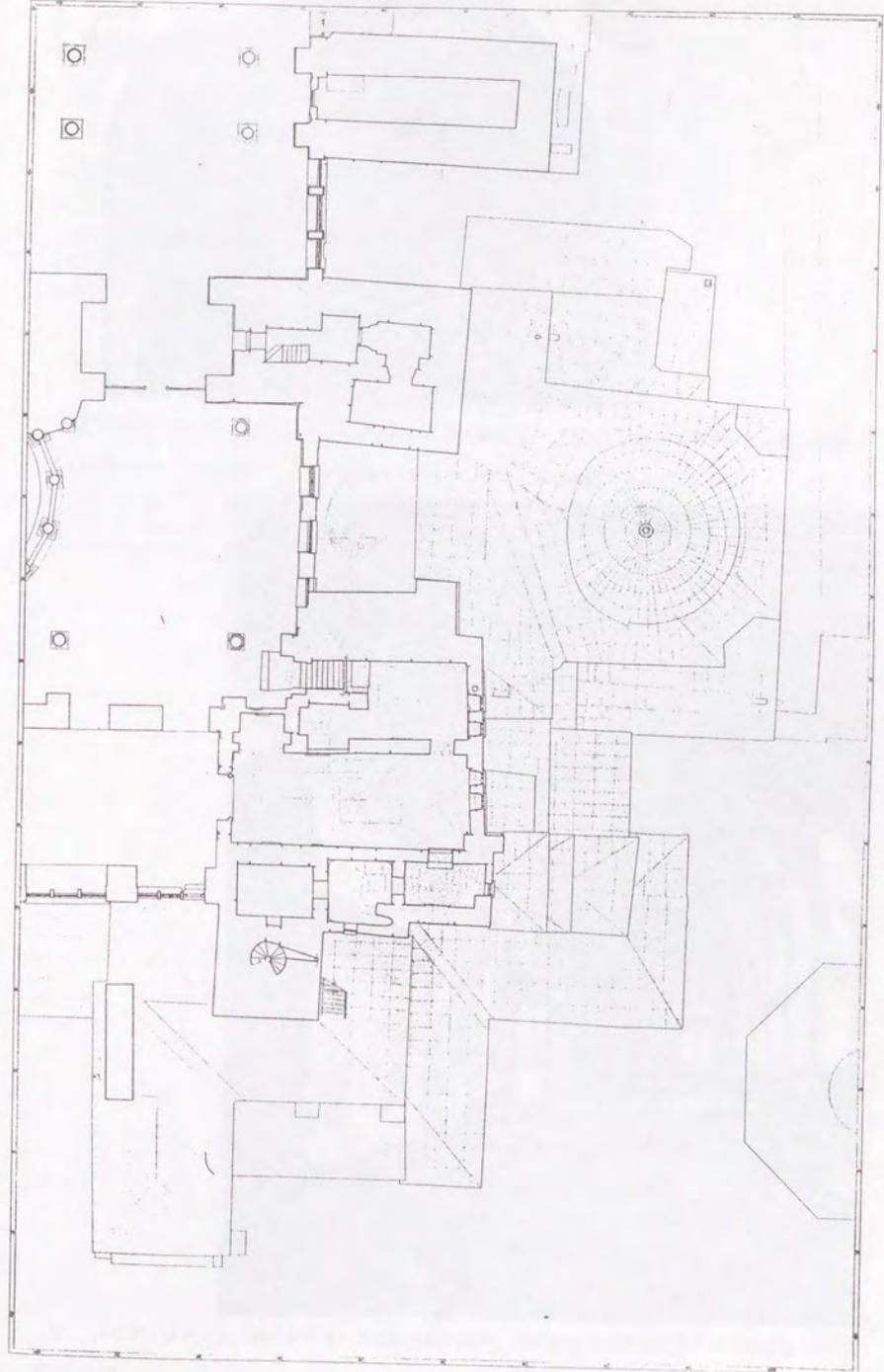
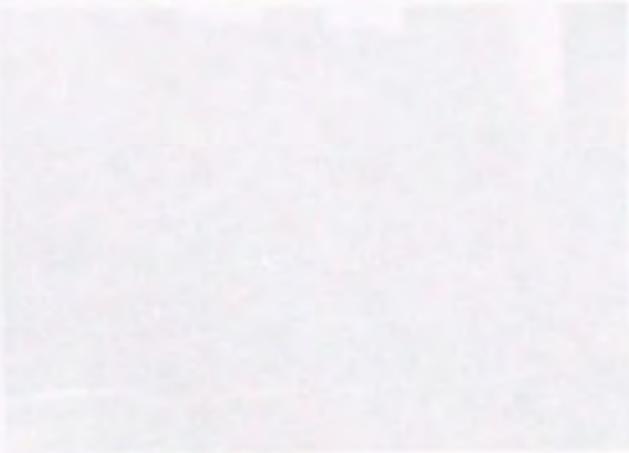
47 ハギア・ソフィア、南ギャラリー中央部東側の開口。他の部分もこのような形態である場合が多い。



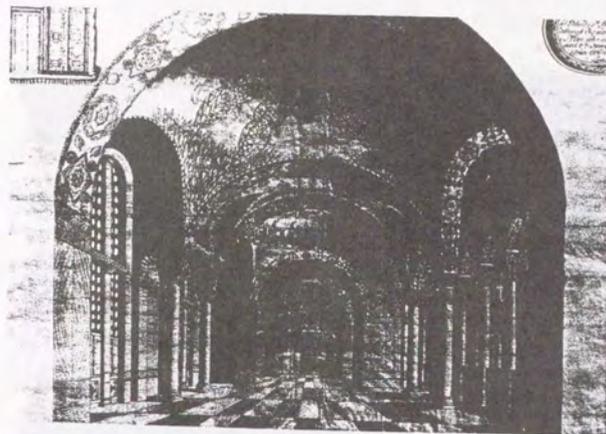
46 ハギア・ソフィア、南ギャラリー中央部西側開口部分の西端のバラベット。このような意匠の彫刻を持つバラベットは他に存在しない。



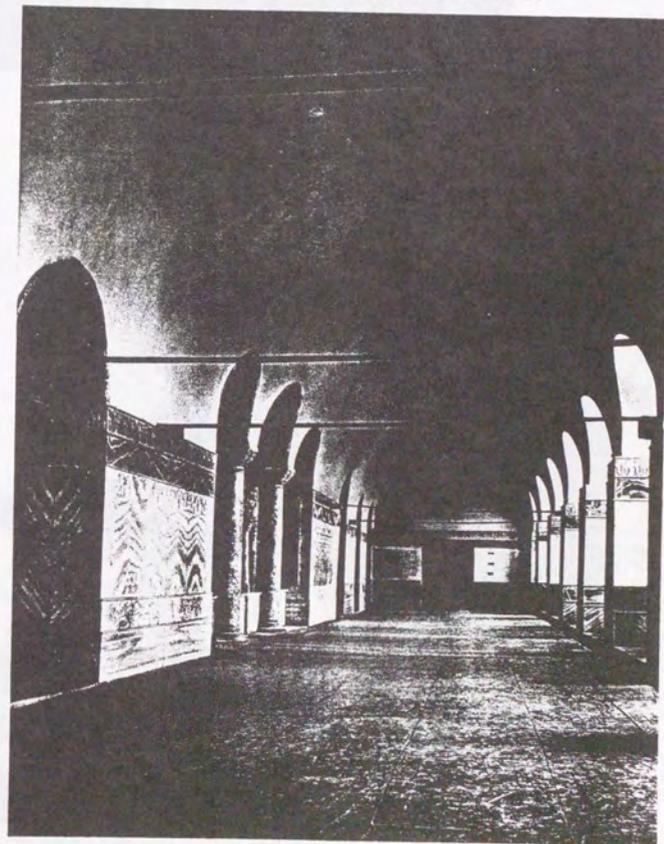
48 ハギア・ソフィア、南ギャラリー中央部東側開口部分の東端のバラベット。この左右に十字架、中央に菱形という意匠が一般的である。



50 ハギア・ソフィア、南ギャラリ-西南部、現状の平面図。(ヴァン・ナイスによる)

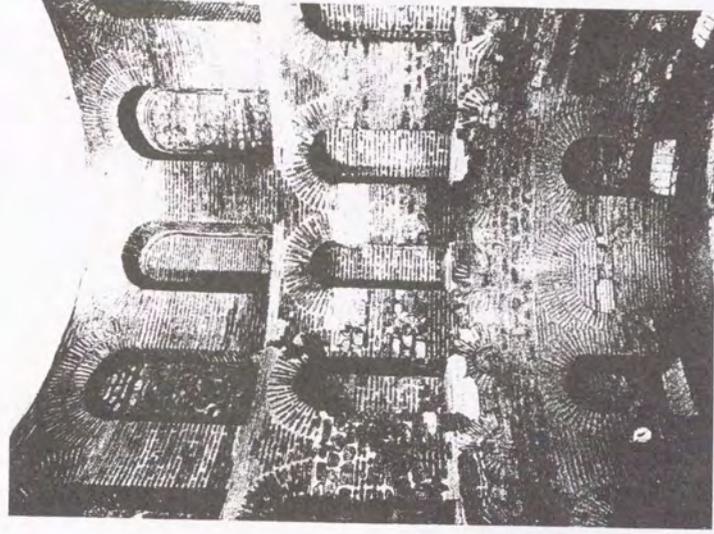


49 ハギア・ソフィア、南ギャラリーを東から西へ見たロースのスケッチ。1710年の状態。手前のベイの天井にはパントクラトールの、次のベイにはペンテコストの装飾があるのがわかる。

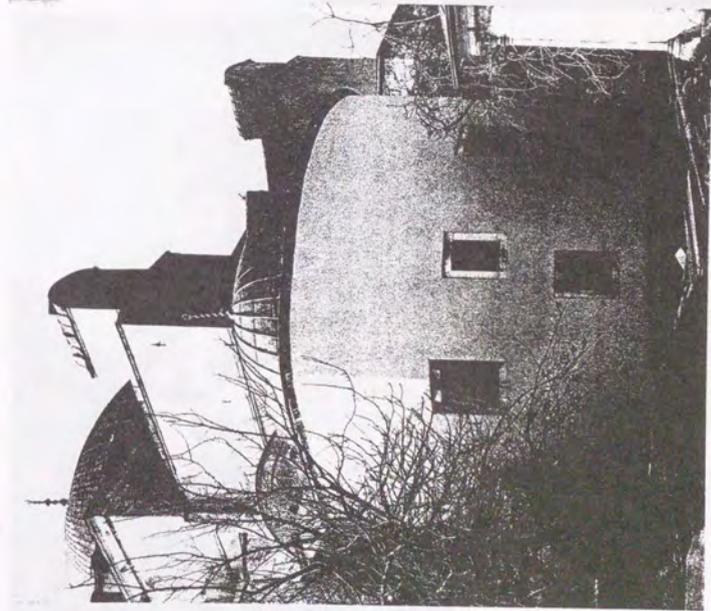


51 ハギア・ソフィア、西ギャラリーを北から南へ見る。突き当たりの扉がナルテックス前室上の部屋への入口。

53 ハギア・ソフィア、スケウオフユラキオンの内部。北側から南側を見る。



52 ハギア・ソフィア、スケウオフユラキオンの外観。北東から見る。

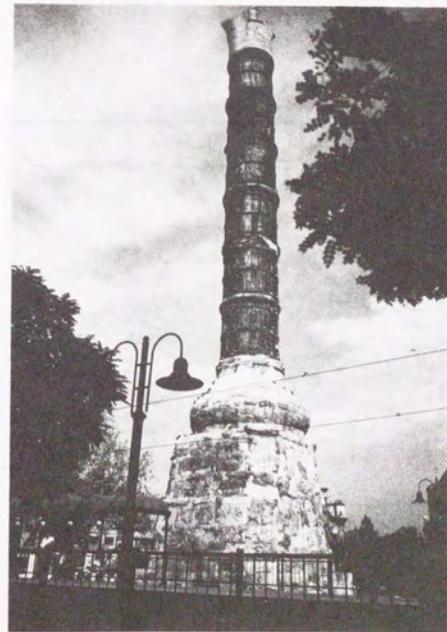


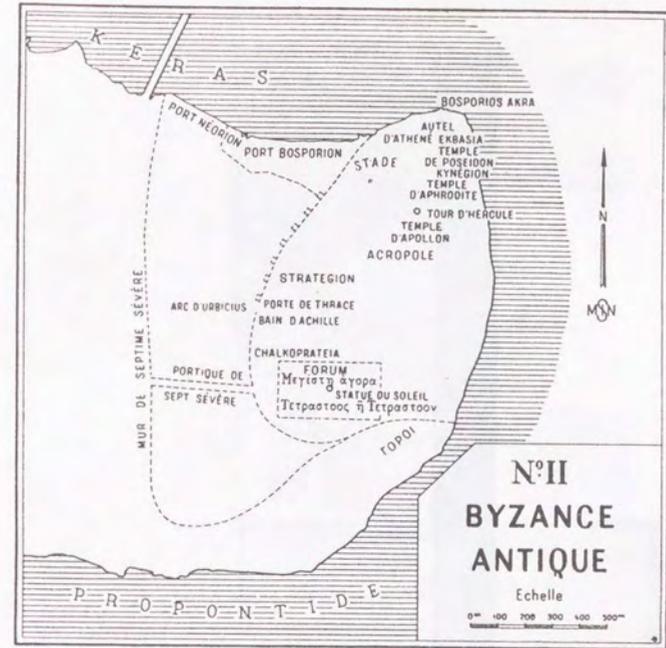


54 現在のチェンベルリタシュ界限を東から望む。

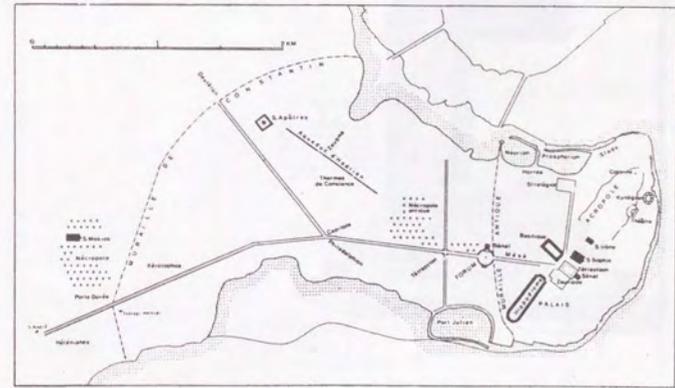


55 東南からみたコンスタンティノスの記念柱。





56 ジャンナンによる古典古代時代のビュザンティオン。



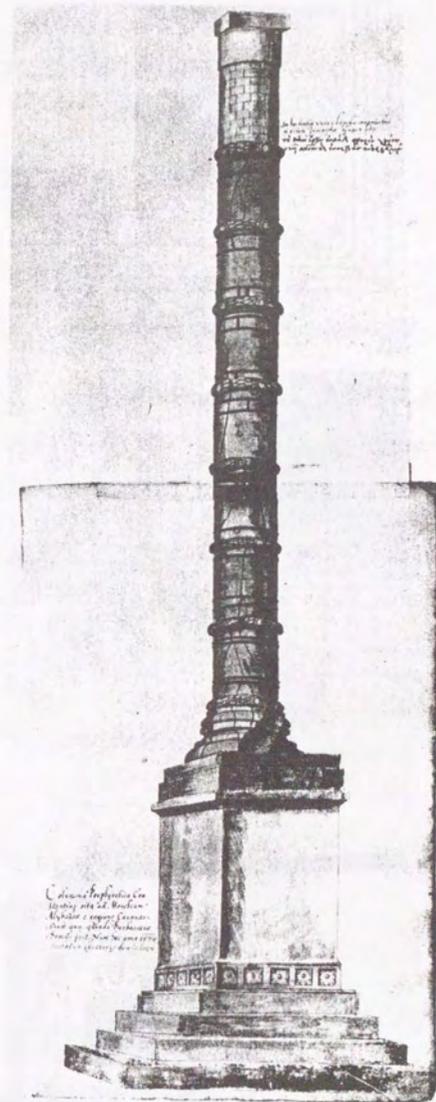
57 マンゴによるかつてのビュザンティオンとコンスタンティノス1世による新市街。



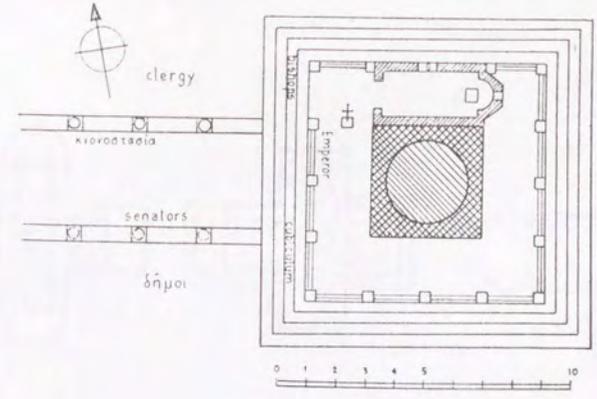
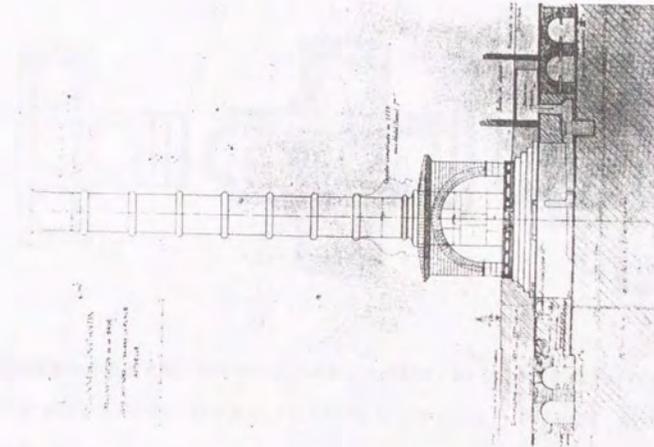
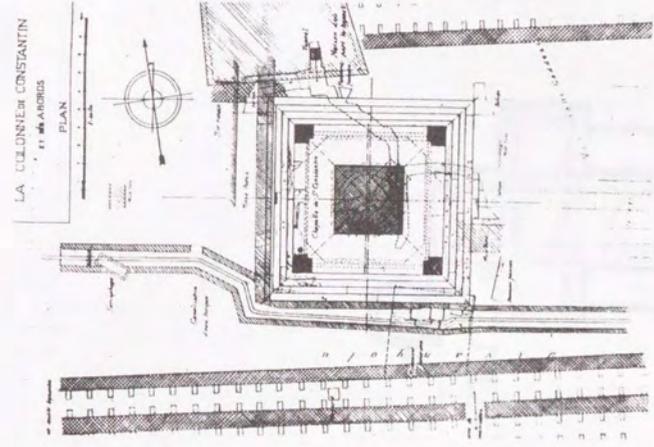
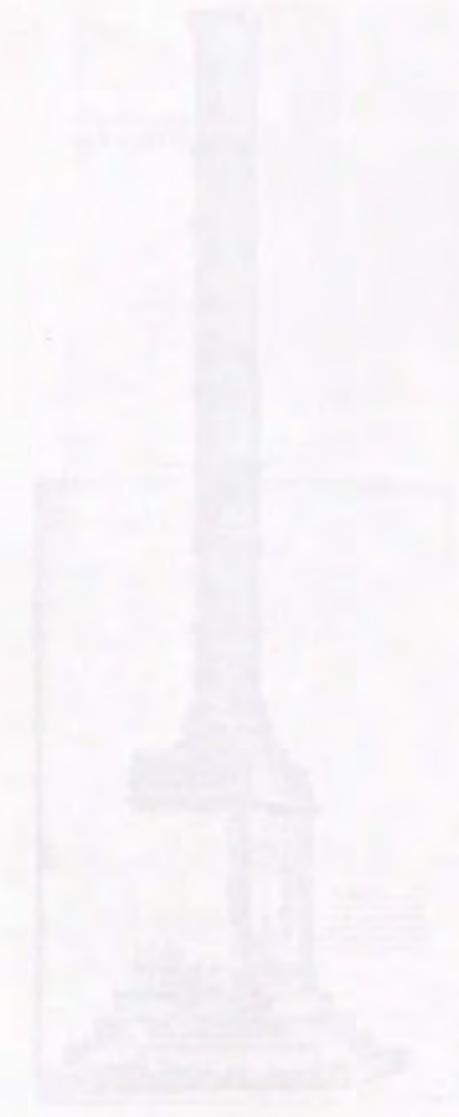
BYZANCE ANTIQUE



BYZANCE ANTIQUE



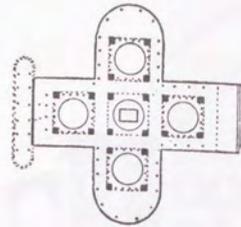
58 1574年の無名の旅行者によるコンスタンティノス1世の記念柱のスケッチ。



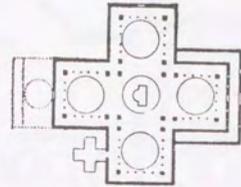
59 発掘調査に基づき、マンブーリーのコンスタンティノスの記念柱の平面図(左)と立面図(右)。

60 マンゴによるコンスタンティノスの記念柱と聖コンスタンティノスの礼拝所の復元平面図。

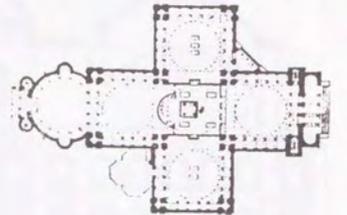
a)



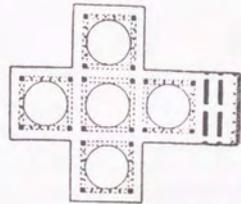
c)



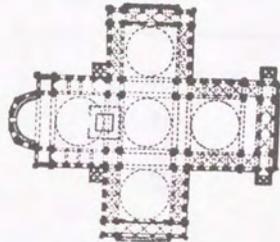
e)



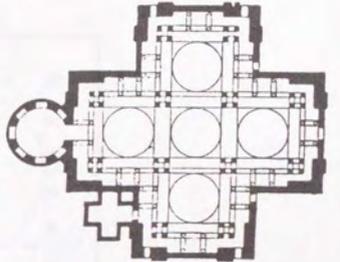
b)



d)

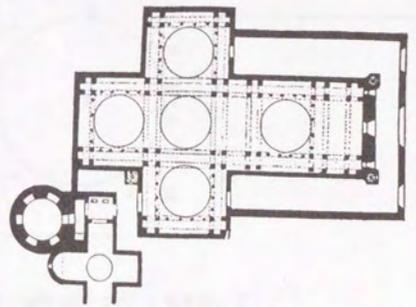


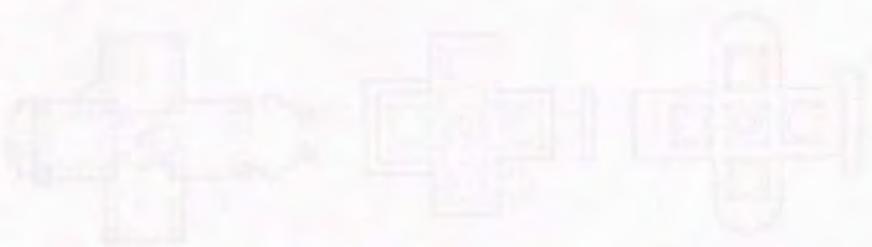
f)



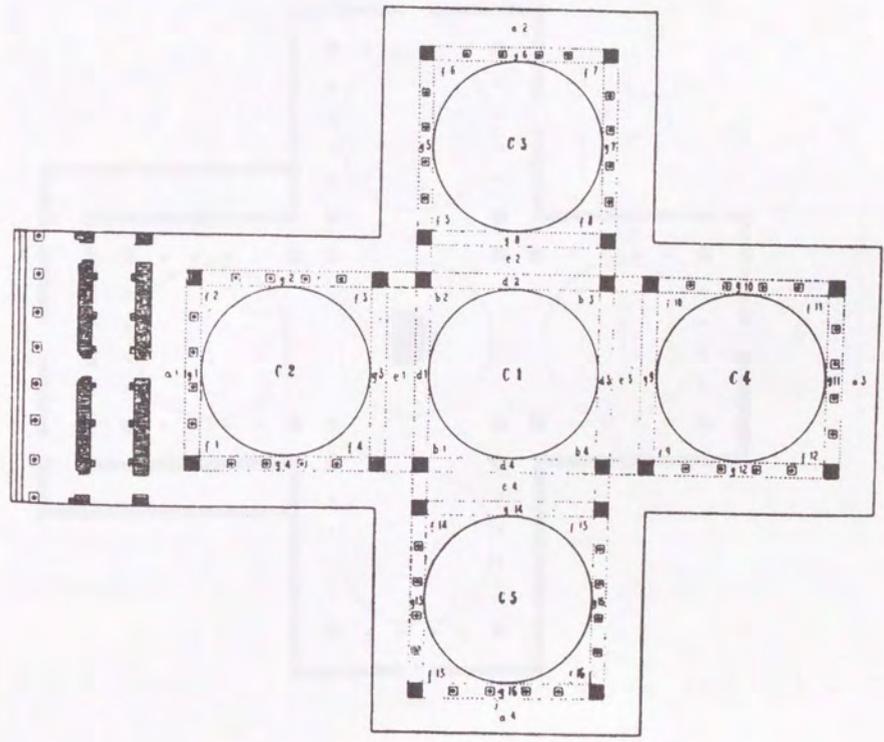
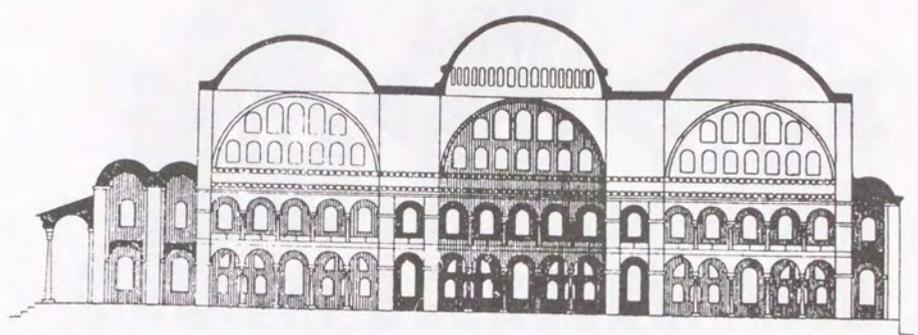
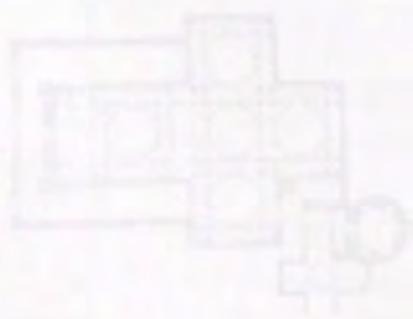
61 聖使徒教会の各復元案。それぞれa)ライナッハ:1896、b)ヴルフ:1898、c)ハイゼンベルク:1908、d)ヒュブシュ:1863、e)グルリット:1912、f)ソティリユー:1921/22、g)ベッティーニ:1946による。

g)

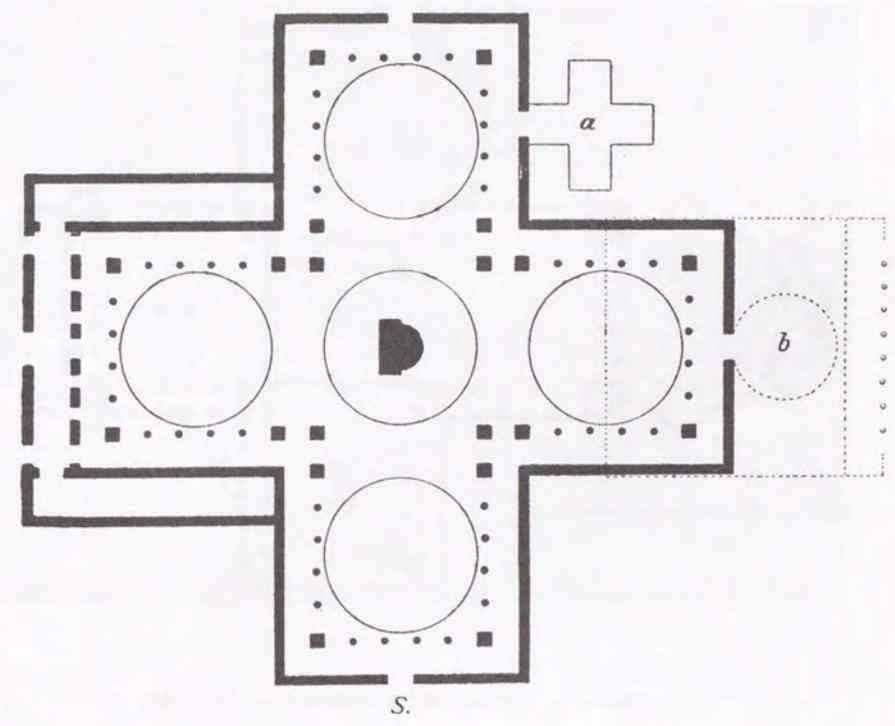
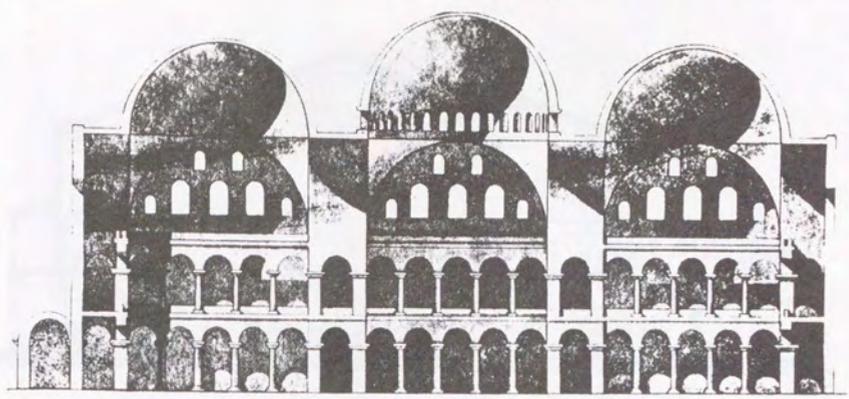
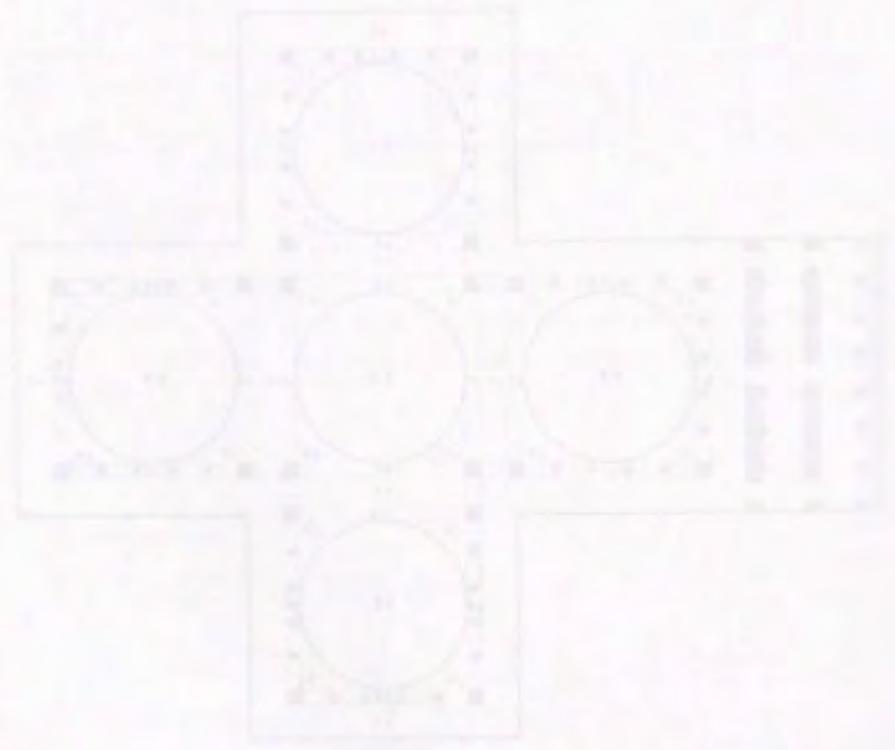




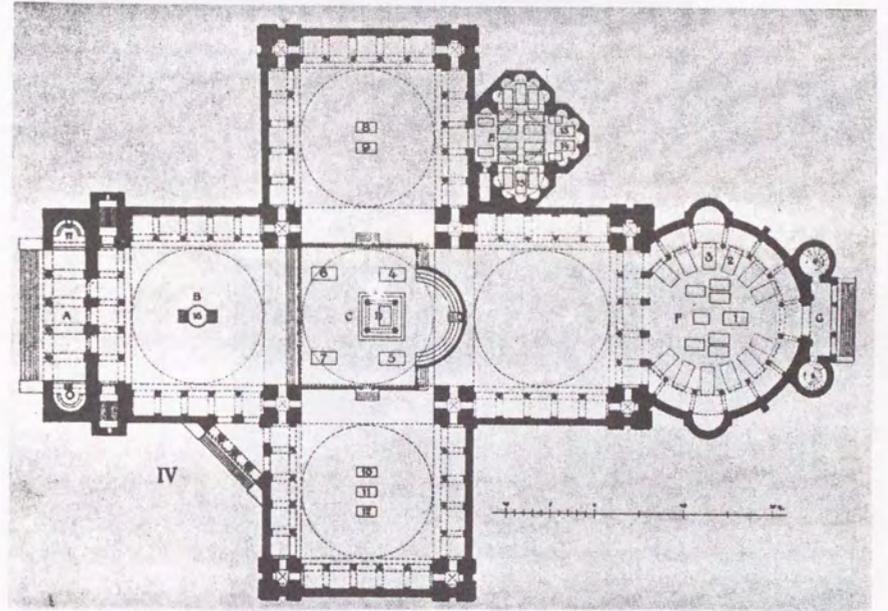
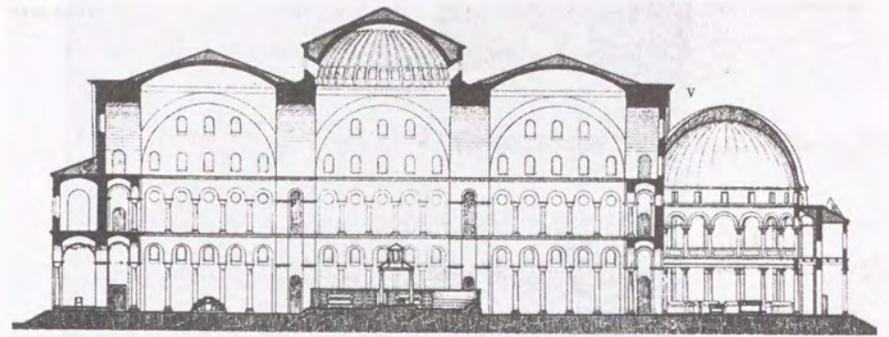
Architectural text, likely a title or description, rendered in a light, illegible font.



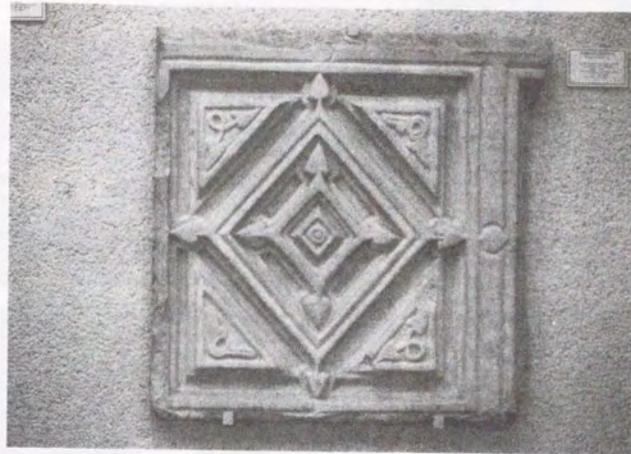
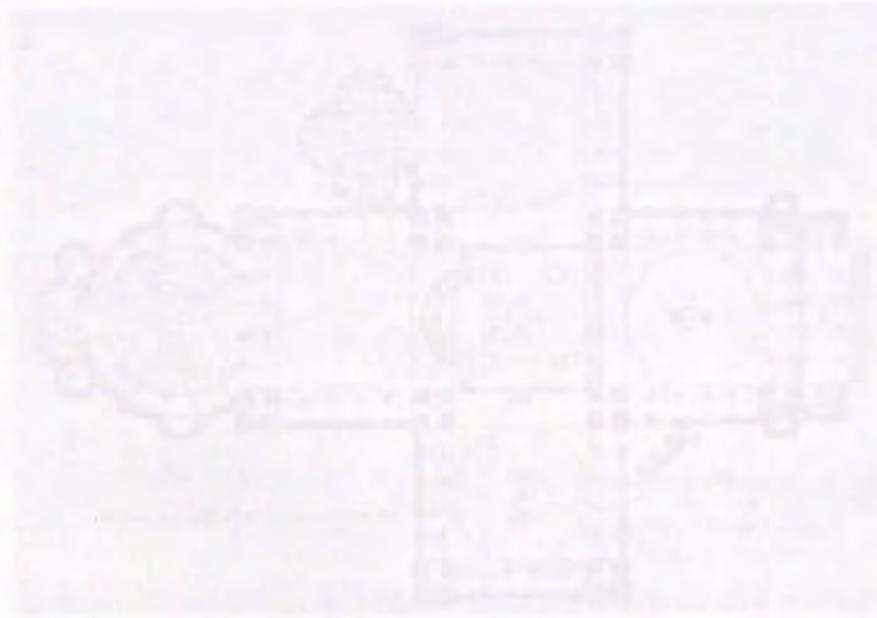
62 ギルフによる聖使徒教会の復元案、縦断面図（上）と平面図（下）。



63 ハイゼンベルクによる聖使徒教会の復元案、縦断面図（上）と平面図（下）。



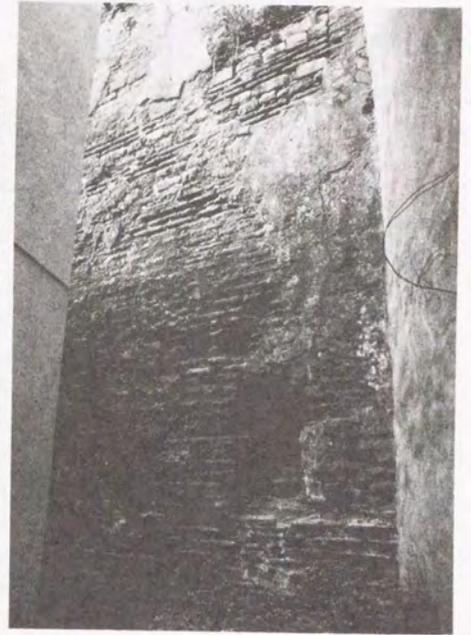
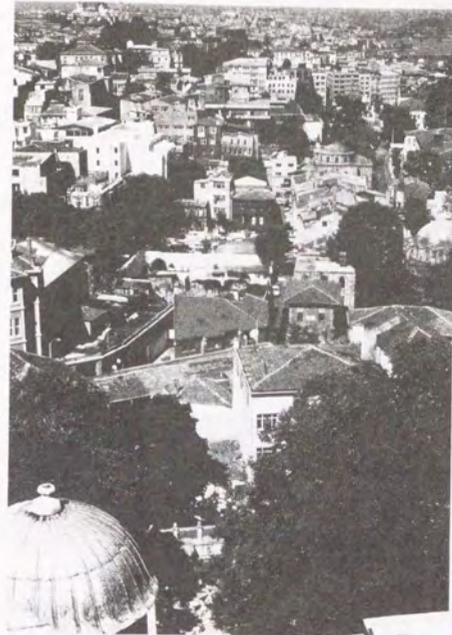
64 グルリットによる聖使徒教会の復元案、縦断面図（上）と平面図（下）。



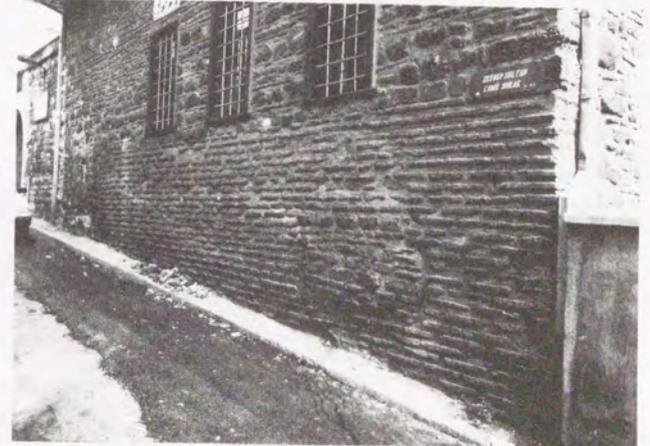
65 6世紀の聖使徒教会のバラベットの断片。



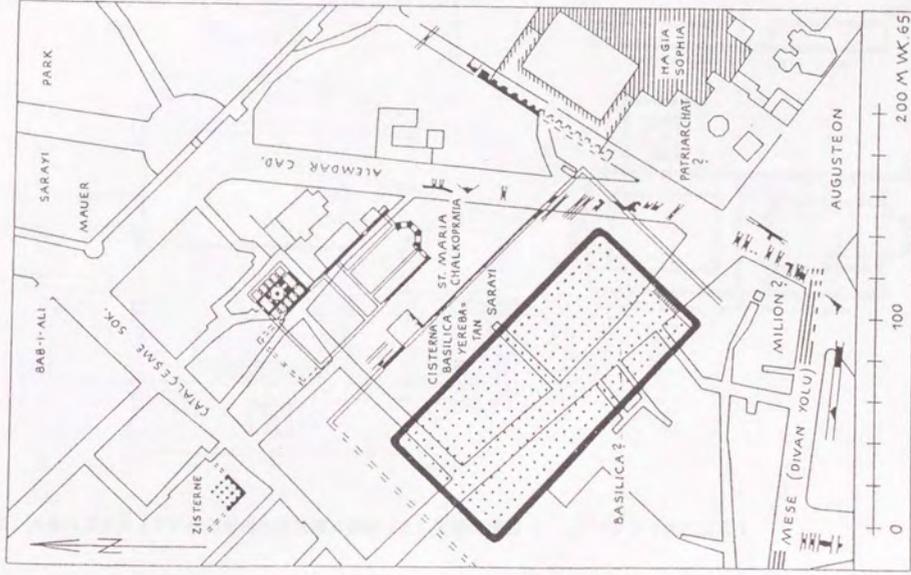
66 6世紀の聖使徒教会のフリーズの断片。



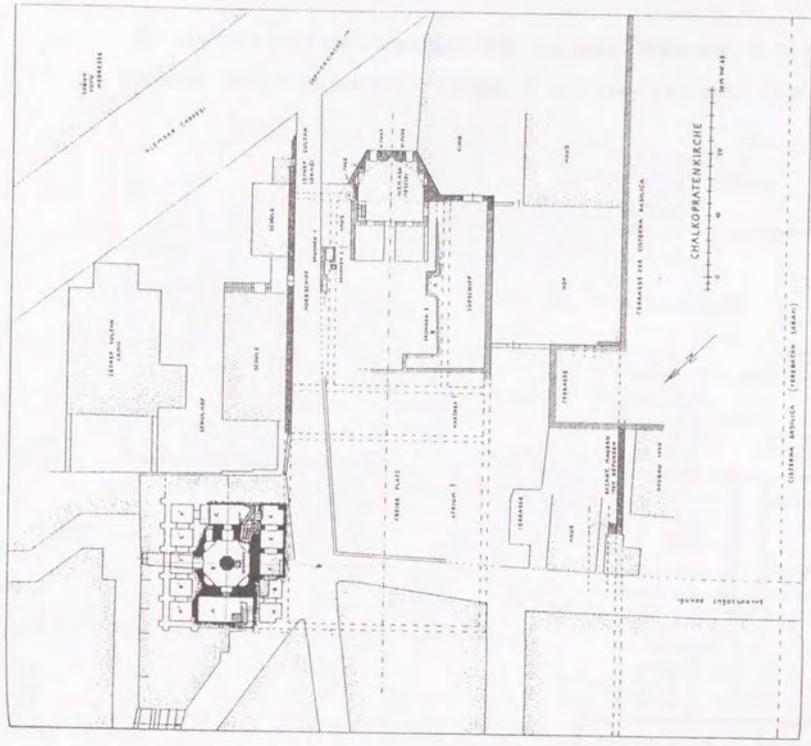
67 ハギア・ソフィア大ドーム基部から見たカルコブラティア地区。画面中央、駐車場手前の多角形の石造壁が聖母教会のアプス、左奥の白く塗ってある壁体が南側廊南側の壁体、その右側の画面奥に向かって延びる、現在のゼイネップ・スルタン・ジャーミー通りが北側廊と考えられている。ちなみに右側のドームを持つ建築はゼイネップ・スルタン・ジャーミー。



69 東から見たゼイネップ・スルタン・ジャーミー通り、画面中央、通りの北側の建物の外壁下部の煉瓦壁が、かつてのカルコブラティアの聖母教会の北側廊北側の壁体である。

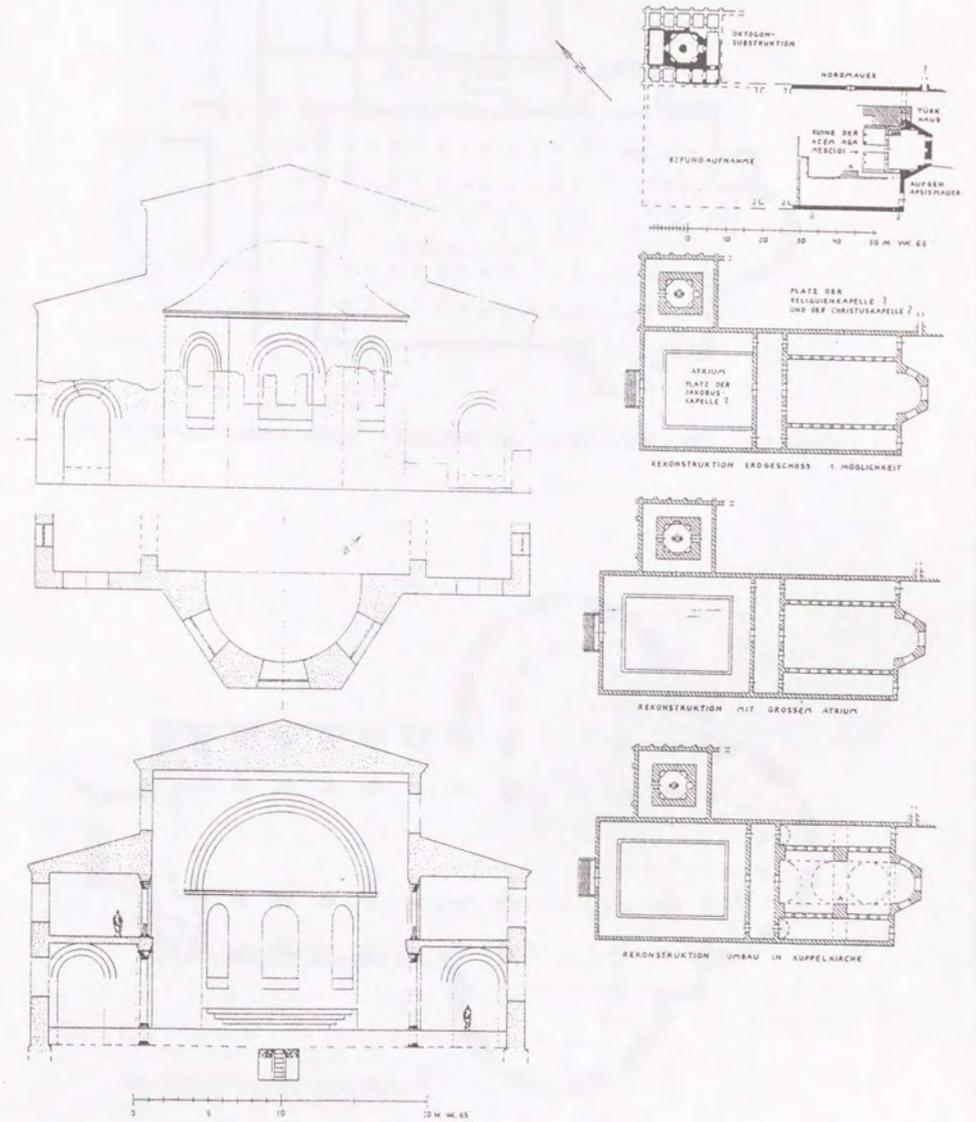


70 クライスによるカルコブラティアの聖母教会の配置図。

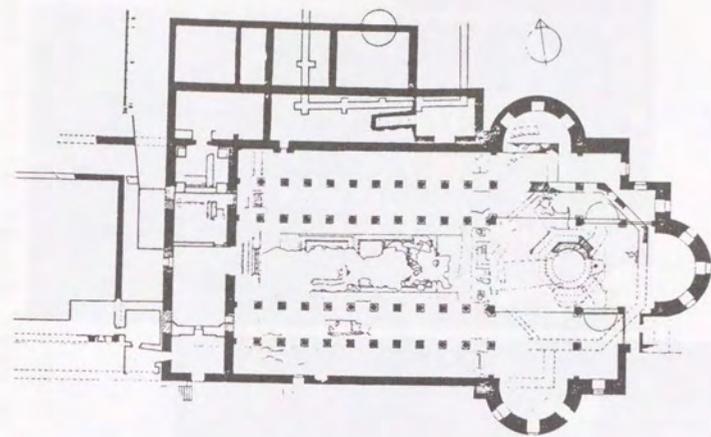


71 クライスによるカルコブラティアの聖母教会の発掘平面図。

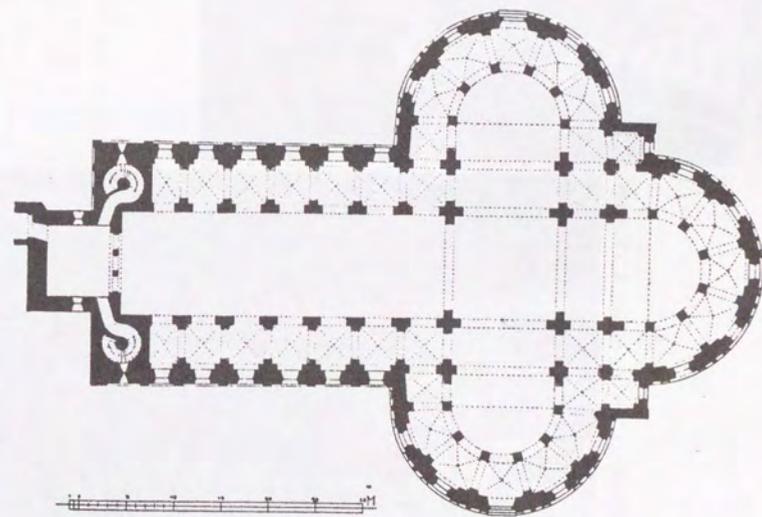
72 カルコブラティアの聖母教会の復元平面図、上から順に、発掘平面図、小アトリウムを持つバシリカ式教会、大アトリウムを持つバシリカ式教会、ドームド・バシリカの場合。(クライスによる)



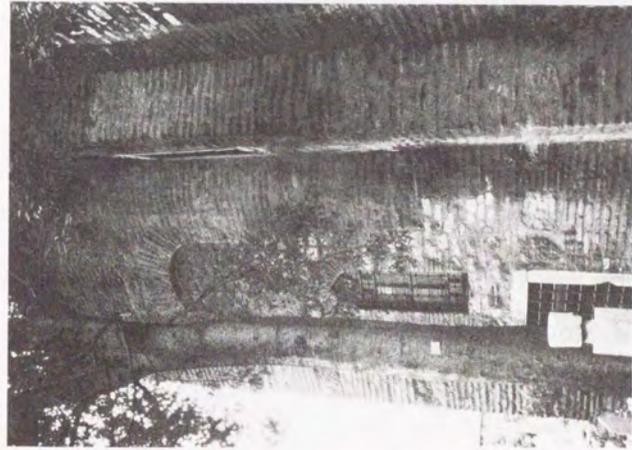
73 カルコブラティアの聖母教会の復元東立面図（上）と横断面図（下）。(クライスによる)



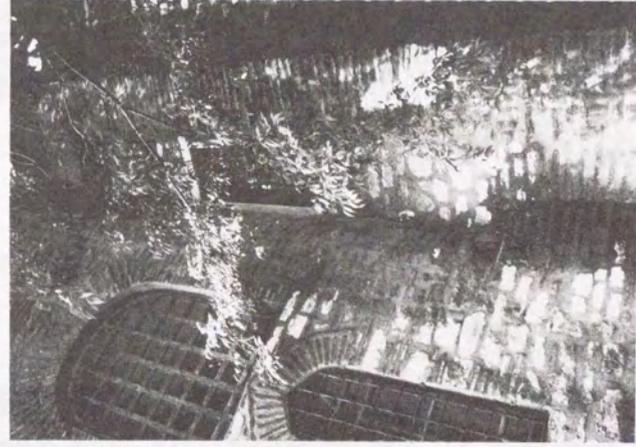
74 ベツレヘム、生誕教会の平面図、6世紀の建築（黒）と4世紀の基礎（斜線）。（ルスレによる）



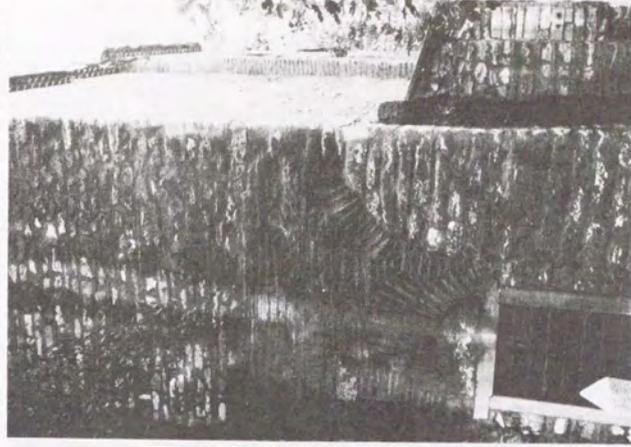
75 ケルン、ザンクト・マリア・イム・カピトール、11世紀建設当初の復元平面図。（ラートゲンスによる）



80 ハギオイ・セルギオス・カイ・バツコス、アブス北壁面。



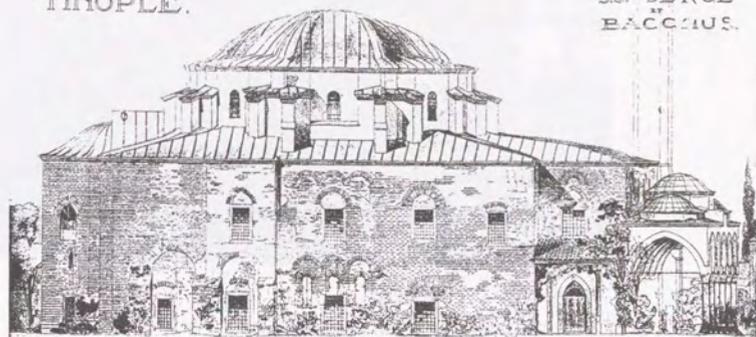
79 ハギオイ・セルギオス・カイ・バツコス、アブス北壁面と本体東壁面の取り合い。



78 ハギオイ・セルギオス・カイ・バツコス、東北角を東側より望む。

CONSTAN
TINOPLE.

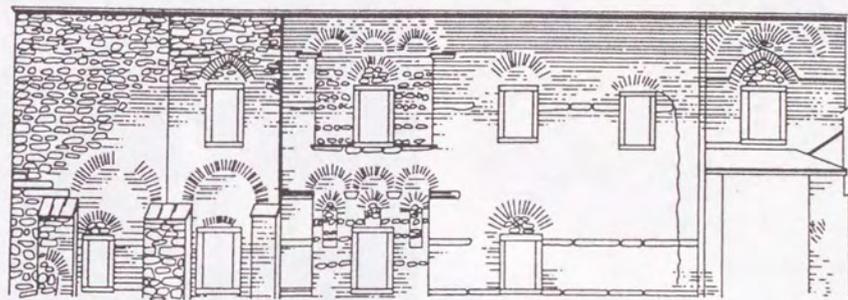
EGLISE.
SS. SERGE
ET
BACCHUS.



FAÇADE .. LATÉRALE ..

ÉGLISE DES SAINTS-SERGE-ET-BACCHUS. FAÇADE SEPTENTRIONALE.

81 ハギオイ・セルギオス・カイ・バックス、ティエルの北立面図。



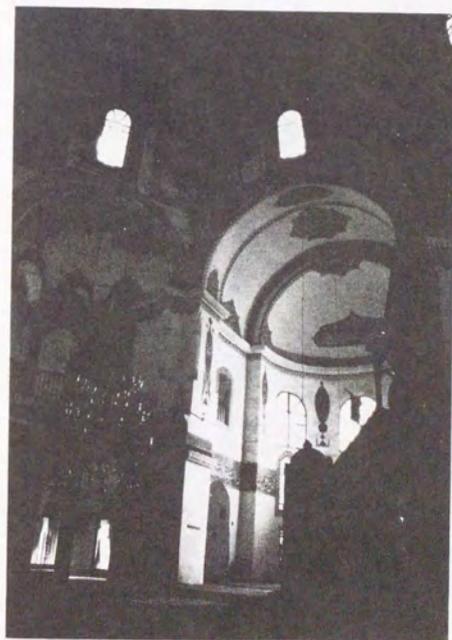
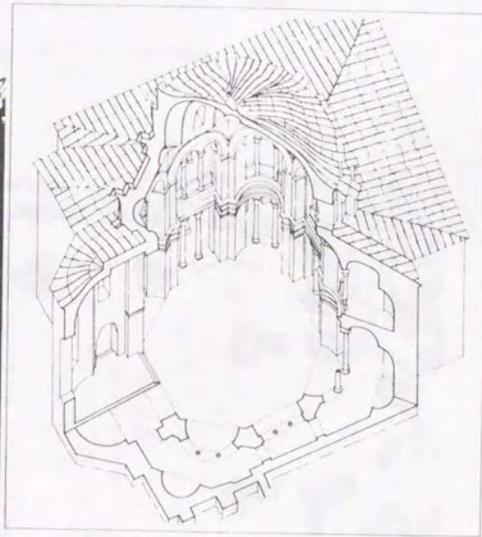
0 5 10 m

82 ハギオイ・セルギオス・カイ・バックス、マシューズの北立面図。

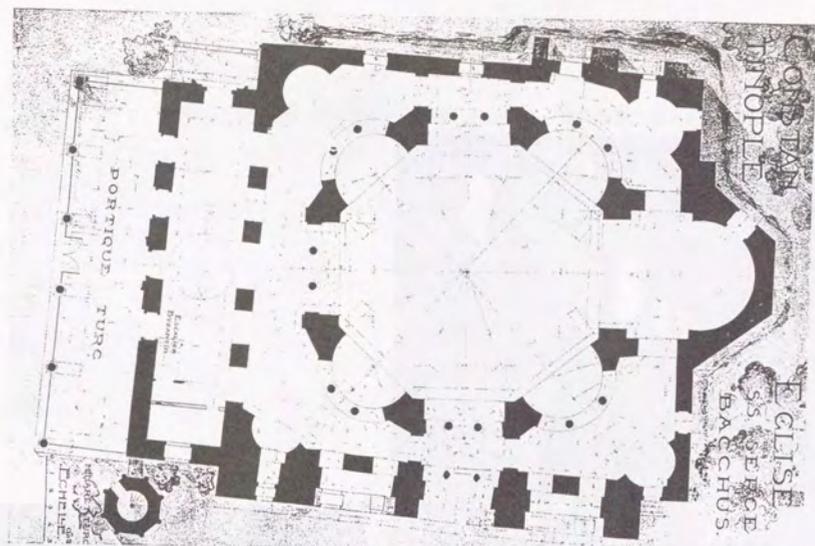
83 ハギオイ・セルギオス・カイ・バッコス、西正面。



86 ハギオイ・セルギオス・カイ・バッコス、アイソメトリック図。(サンパオレスシによる)

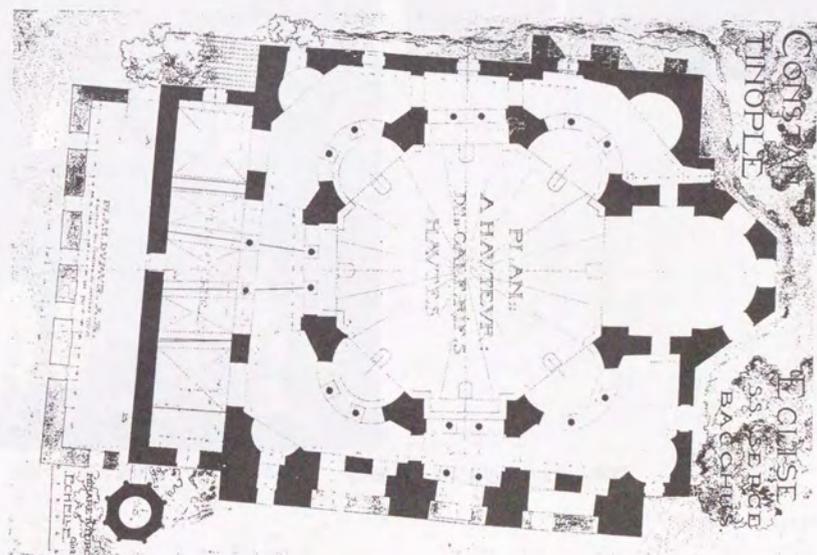


87 ハギオイ・セルギオス・カイ・バッコス、堂内東側アプス方向を西南より望む。



BOULE DES SAINTS-SERGE-ET-BACHUS, PLAN DE PREMIER ETAGE.

84 ハギオイ・セルギオス・カイ・バックス、一階平面図。(ティエルによる)

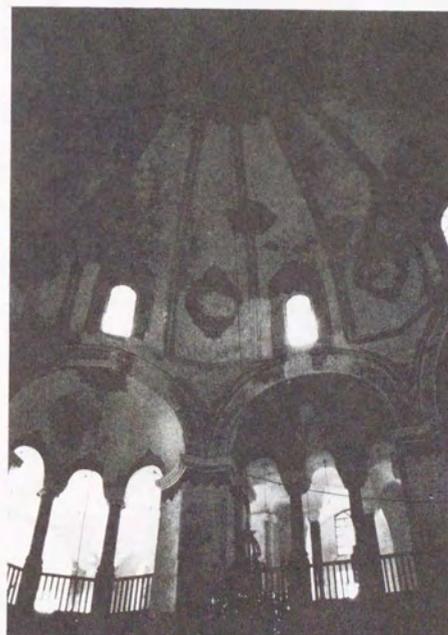
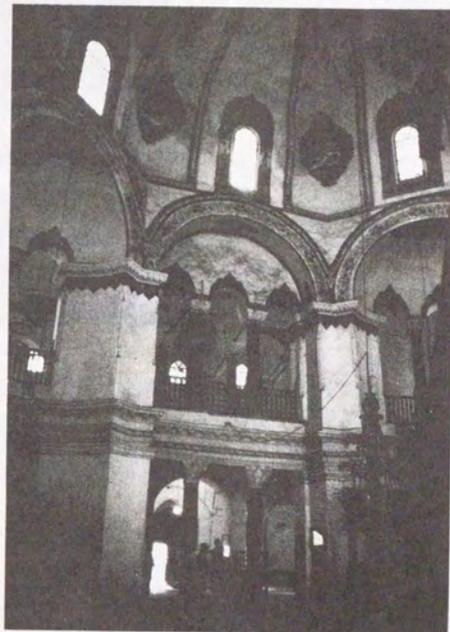


BOULE DES SAINTS-SERGE-ET-BACHUS, PLAN DE DEUXIEME ETAGE.

85 ハギオイ・セルギオス・カイ・バックス、二階平面図。(ティエルによる)



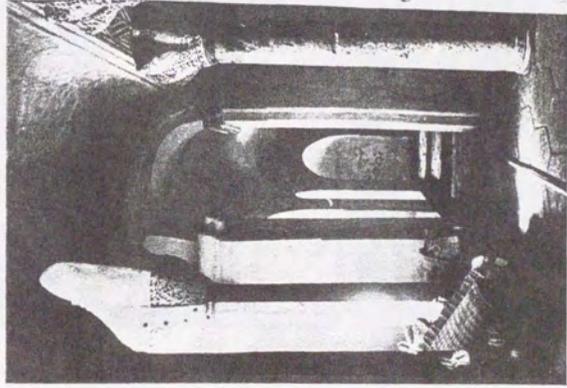
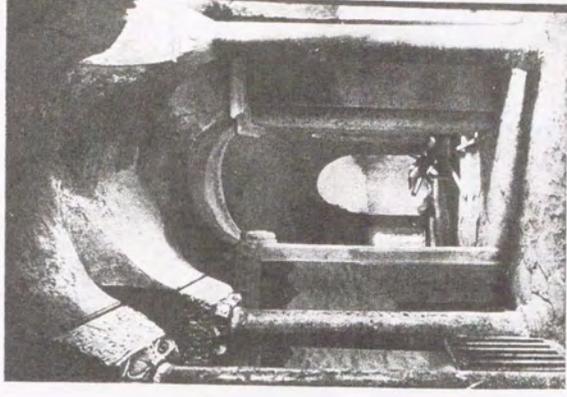
88 ハギオイ・セルギオス・カイ・パッコス、堂内西側入口方向を東北より望む。



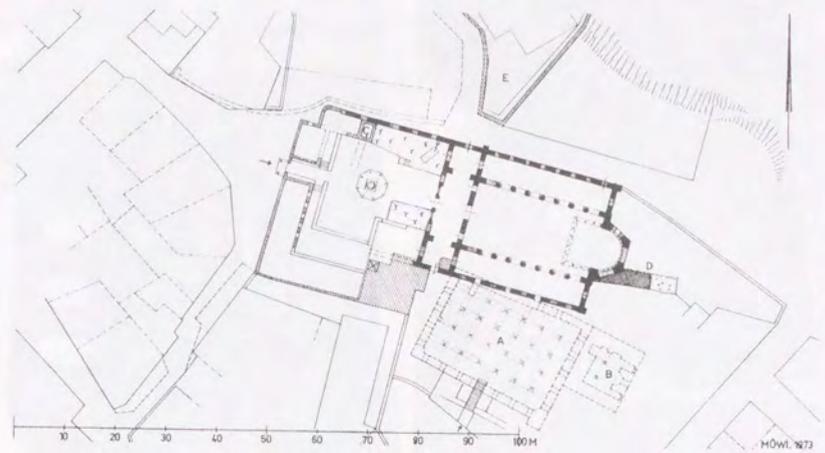
89 ハギオイ・セルギオス・カイ・パッコス、堂内南東上方向を中央より見上げる。



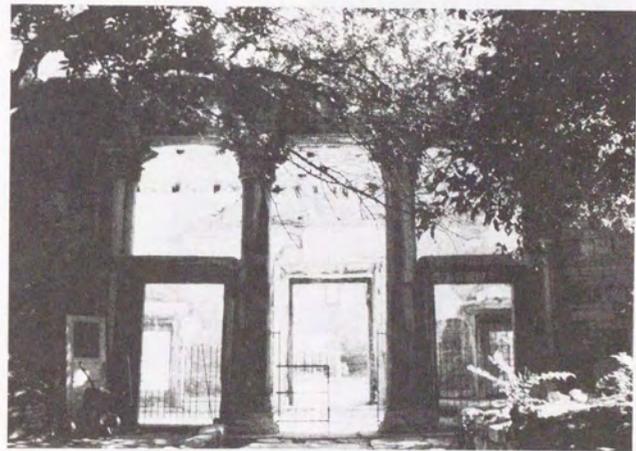
91 ハギオイ・セルギオス・カイ・バッコス、南ギャラリーを西から東へ見る。



90 ハギオイ・セルギオス・カイ・バッコス、南ギャラリーを東から西へ見る。床面の六角形のタイルはオスマン時代のもの。柱が「沈んで」見えることに注意。



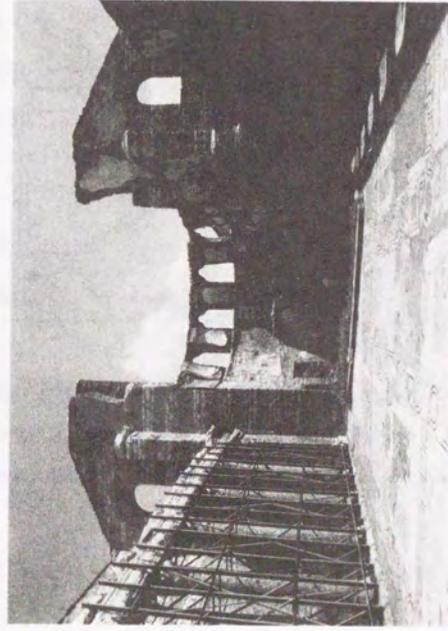
92 ストゥーディオス修道院洗礼者教会、現状の配置と平面図。(ミュラー=ヴィーナーによる)



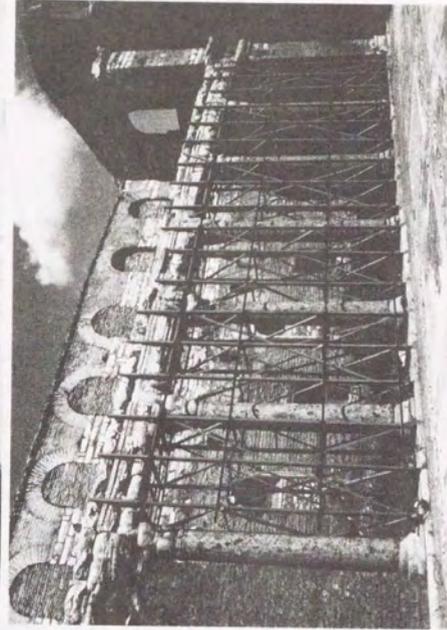
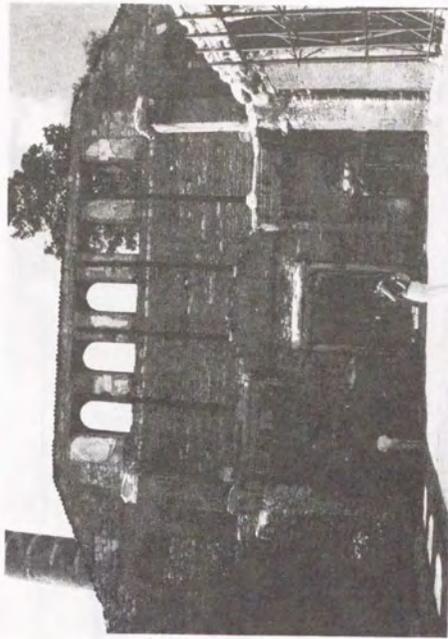
93 ストゥーディオス修道院洗礼者教会、ナルテックスのアトリウム側入口を西から見る。



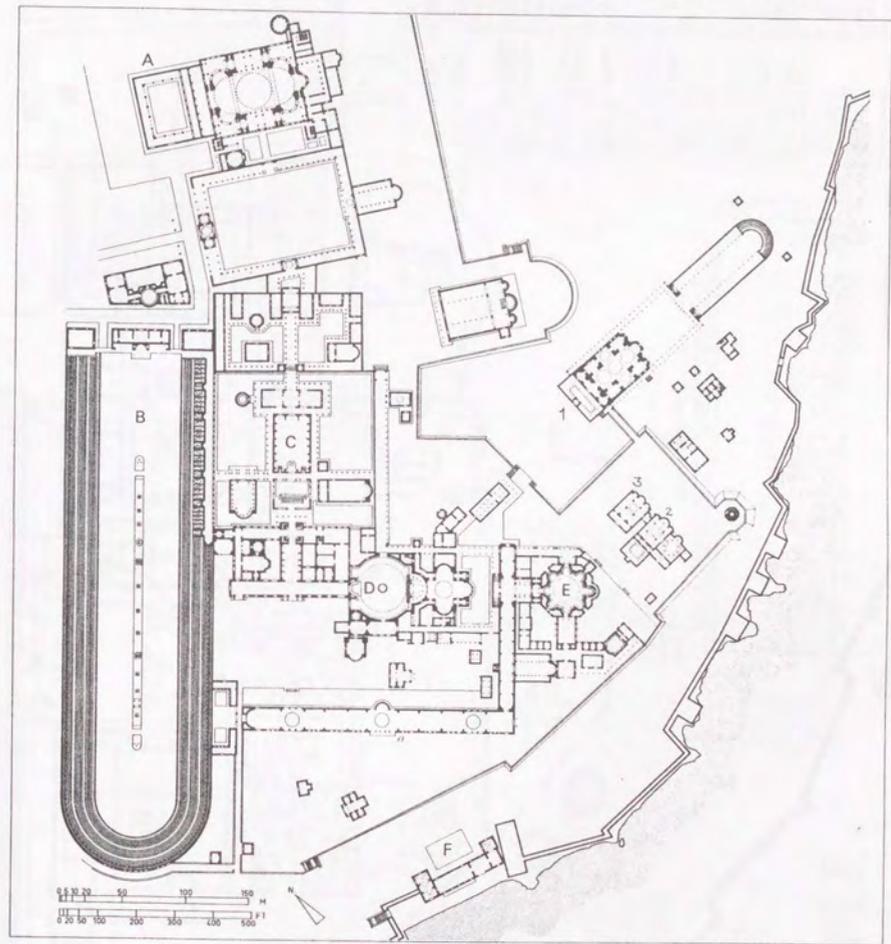
95 ストウーデーイス修道院洗礼者教会、身廊を入口方向へ東から見る。



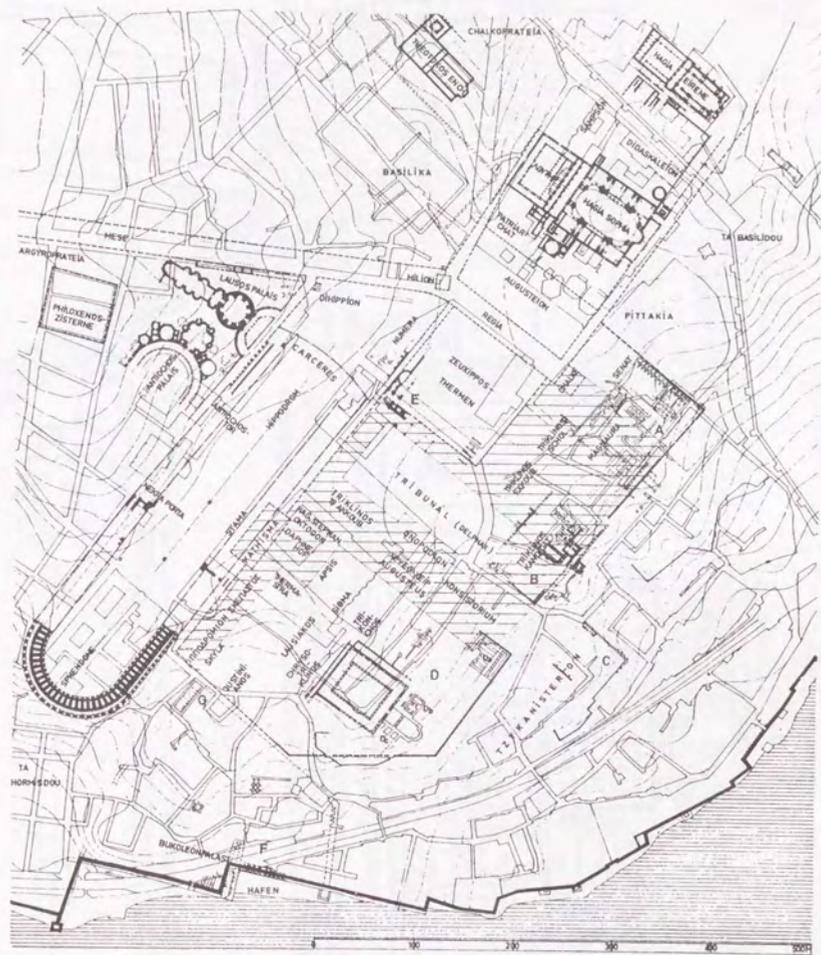
94 ストウーデーイス修道院洗礼者教会、身廊をアブス方向へ西から見る。



96 ストウーデーイス修道院洗礼者教会、身廊西南から北側の列柱と側廊を見る。



97 大宮殿の復元平面図、ウベソルの説をもとにティエルが作図したもの。1：ネア、2：ファロスの聖母教会、3：聖デメトリオス、A=ハギア・ソフィア、B=ヒッポドロモス（戦車競技場）、C=19寝台の間、D=テオフィロス帝のトリコンクの前庭、E=クリュソトリクリノス。



99 大宮殿とその周辺の現存および発掘遺構。上部構造が確認されたものは黒、基礎が発掘されたものは白ぬきで記載されている。名称だけ記載されているものは、おおまかな推定位置である。なお街路は1917/18年の調査に基づいている。(マンブーリとヴィーガントによる)

100 大宮殿の復元平面図。ギロンの説をもとにミランダが作図したもの。

Reconstitution des Ruines et des Edifices hypothétiques du
Grand Palais des empereurs byzantins vers le 7^e siècle
par S. Miranda 1968

Schiller 46. Grundriß 28 & 28. 1/100m
Plan des Sais. N. & 2. 1/100m

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 m.

St. Simeon et Saint Pierre à Paris

